國學院大學 院友経済

國學院大學　政経学部・経済学部の卒業生、

経済学研究科修了生と恩師で綴る同窓会誌

2018年3月

國學院大學『院友経済』2018 目次

会長挨拶
ご挨拶
院友経済会会長 大塚 勤 2

院友経済会・近年の活動内容 3

学部長挨拶
経済学部長挨拶
國學院大學経済学部長 橋元 秀一 4

追悼
故 松村 博先生を偲んで
院友経済会副会長 鍋田 英彦 8

経済学会
平成29年度 経済学会学生懸賞論文 講評
経済学部准教授 細谷 圭 10

Prologue
最優秀賞受賞に寄せて
経済学部経営学科 安達 圭音 12

Prologue
働く事を考え抜いた4年間
経済学部経済学科 鈴木 正義 14

随想
俳諧の茶事
三浦 侃 16

EVENT
スペシャルトークショー
～元千葉ロッテマリーンズ・渡辺俊介投手を迎えて～ 18

NEWS & TOPICS

母校への応援・応援メッセージ募金　22
寄付者一覧・年度会費納入者一覧　23

事務局だより

平成29年度　定例総会　24
平成29年度　決算書・平成30年度　予算書　26
終身会費納入者名簿　27
院友経済会　会則　28
編集後記　表3
平成30年度総会・懇親会開催案内

〔題　　字〕三浦　顯　72期政経

〔表紙写真〕

柔道部

全日本学生柔道優勝大会（H29.6.24　日本武道館）において、男子団体戦ベスト８に入った。個人表彰では、優秀選手に二見省吾君（写真左から４番目）（経済３年）が２年連続で選ばれている。

2020年東京オリンピック代表入りを目指し、母校において今最も世界に近いところで頑張っている部会である。

ご挨拶

院友経済会会長　大塚　勤（74期）

院友経済会は國學院大學の経済学部卒業生の親睦団体です。会の目的は、会員相互の親睦をはかり、さらに母校の発展のために協力する事です。

平成29年度の総会は、平成29年11月18日に開催されました。平成29年度の事業報告と平成30年度の事業計画並びに予算案を承認して頂きました。また、理事の改選期となり、新たに7名の理事を選任し、役員人事も新たに鍋田英彦理事に副会長に就任して頂く事となりました。

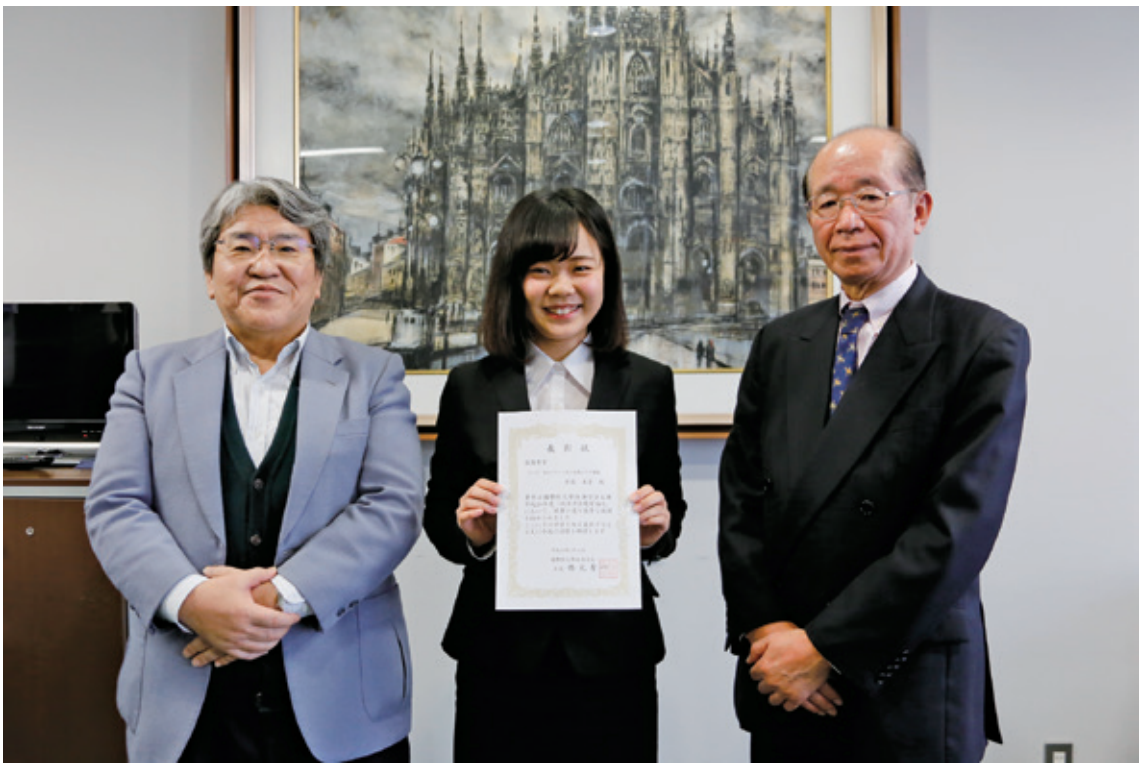
そして、卒業生が経済学部学生に伝える就活メッセージを「絆プロジェクト」と題して開催しました。その後のトークショーには、元千葉ロッテマリーンズ・渡辺俊介さんをお招きしました。ご存じのとおり渡辺俊介さんは、球界を代表する技巧派アンダースロー投手として、2000年のシドニーオリンピックに出場され、その後プロ野球に入っても2006年と、2009年の「WBC」に出場されました。学生時代からプロ野球、アメリカや、ベネズエラでのプレイ経験など、面白いトークは1時間半では足りない内容となりました。聞き手は我々の先輩である、ニッポン放送アナウンサー・宮田統樹さんにお願いいたしました。

そして、懇親会にも多くの会員が出席してくださり、業種を超えての懇親を図ることが出来ました。

そして、もう1つの大きな目的は学生支援事業です。母校の学生で大規模災害に遭遇し苦労を強いられている学生諸君に、奨学寄付金として寄付を行っております。

また、経済学会懸賞論文や課題解決型授業（PBL）のプレゼンテーション大会での優秀チームの表彰などの活動を行っております。

大塚　勤
（OTSUKA, Tsutomu）
74期政経
昭和19年1月生まれ、國學院大學政経学部卒業
元・徳間書店取締役・映像事業局長、海外事業局長
元・徳間デジタル放送・代表取締役
元・スーパーデジタル放送・代表取締役
株式会社エイアンドジー・顧問プロデューサー
株式会社東芸ブレイン・顧問
（趣味）ゴルフ、映画鑑賞



懸賞論文最優秀賞の安達圭音さん（中央）、大塚会長（右）、橋元学部長（左）との記念撮影　2018.1.23

院友経済会・近年の活動内容

H28	11／26（土）	・平成29年度第１回理事会（母校0505大学院演習室） ・母校に対し大規模災害被災学生への支援として「奨学寄附金」10万円を寄付
	12／ 3（土）	・院友経済会発足60周年、経済学部開設50周年記念祝賀会を開催 ・祝賀会内で基礎演習（PBL）プレゼンテーション大会優秀チームに院友経済会特別賞として表彰状と賞金を贈呈（母校5号館アリーナ）
H29	2／25（土）	・平成29年度第2回理事会（母校0505大学院演習室）
	3／19（日）	・平成28年度卒業式（グランドプリンスホテル新高輪“飛天の間”）及び卒業祝賀会（母校渋谷キャンパス）に出席
	5／27（土）	・院友会全国支部長総会に会長出席
	6／ 3（土）	・平成29年度第3回理事会（母校0505大学院演習室）
	7／ 8（土）	・平成29年度第4回理事会（母校0505大学院演習室）
	10／21（土）	・母校ホームカミングデー・院友大会に参加
	10／28（土）	・平成29年度第5回理事会（母校0505大学院演習室）
	11／18（土）	・平成29年度定例総会（2103教室）詳細はP24参照 ・絆プロジェクト＊（学部合同） ・スペシャルトークショー（2104教室）詳細はP18参照 ・懇親会（学部合同）（有栖川宮記念ホール）
	11／29（水）	・PBLプレゼンテーション大会に審査員として出席し、併せて院友経済会特別賞を贈呈。
	12／ 2（土）	・平成30年度第1回理事会（母校0505大学院演習室）
H30	1／23（火）	・母校に対し大規模災害被災学生への支援として「奨学寄附金」10万円を寄付 ・平成29年度経済学会主催懸賞論文受賞者表彰式に出席。会長より最優秀賞、優秀賞の学生に表彰状と褒賞金を贈呈。
	2／17（土）	・平成30年度第2回理事会（母校会議室01）
	3／18（日）	・平成29年度卒業式（グランドプリンスホテル新高輪“飛天の間”）及び卒業祝賀会（母校渋谷キャンパス）に出席

＊絆プロジェクト
経済学部在学生で組織された「学生委員会」が主に企画し、開催しました。在学生へのキャリア支援の一環として、社会の第一線で活躍されている若手の OB を招き、学生の就活へのアドヴァイスと熱いエールを送っていただくという企画です。院友経済会も会場に加わり、交流をしました。

絆プロジェクト学生委員会の皆さんと根岸副学部長（当会理事）
2017.11.18

PBLプレゼンテーション大会 院友経済会特別賞の表彰
（右は鍋田副会長）2017.11.29

経済学部長挨拶

國學院大學経済学部長　橋元　秀一

日頃より、卒業生のみなさま、院友経済会役員のみなさまには、経済学部への多大なご支援を賜り、深く御礼を申し上げます。本年度も1年生の「基礎演習B」プレゼンテーション決勝大会に院友経済会の役員のみなさまがご参加くださった上に、院友経済会会長賞を授与いただき、かつ有用な学生たちへのコメントをしていただきました。また、経済学会懸賞論文でも特別賞を表彰くださいました。今年度は新たに、院友経済会懇親会の場で現役3年生が卒業生から進路選択や就職活動への助言を得られる機会をおつくりくださいました。学生の学びを励まし支援してくださいますことに、重ねて感謝申し上げます。

昨年度、経済学部は開設50年目を迎え、院友経済会とともに祝賀会を開催させていただくなど、大きな節目となりました。51年目の今年度は、新しい時代の中で求められる経済学部へと進化を遂げるべく歩みを始めました。かつての日本とは様変わりした経済社会の中で、これからの人材に求められる能力は従来とは大きく変化しています。歴史や過去の経験からだけでは容易に解決策を打ち出せない不確実な条件や環境が広がっているからです。基礎学力や論理的思考力など大学入学までに身につけておくべき最低限の学びさえ不十分であると言われている近年の学生にとって、これからの時代に向き合い、切り拓いていくことは簡単ではありません。そうした時代を生きる学生が学び身に付けるべきものとは何でしょうか。それを明確にし、授業改善をはじめ学部改革を進めることが必要です。自らの可能性を信じ、希望する将来の実現を目指して自覚的主体的に大学での学びに取り組み、学生が成長していけるようにしていくことが求められています。学生がそのような学びの場と実感できるようなカリキュラムと学び方ができる経済学部へと展開していく必要があります。

昨年の6～7月に國學院大學卒業生調査が行われました。この調査は、國學院大學での学びが、卒業後どのように活きているかを検証する目的で実施されました。平成18年度、23年度、25年度、26年度の卒業生7842名に配布し、902名から回答をお寄せいただきました（回

PBLプレゼンテーション大会（H29.11.29）

PBLプレゼンテーション大会（H29.11.29）

収率11・5％）。経済学部卒業生は135名が回答してくださいました（回収率6・7％）。この調査結果を簡単にご紹介し、卒業生が大学での学びをどのように感じているのかを踏まえ、経済学部の今後にとっての課題を考える一助にしようと思います。

「学生時代に学修したことや取り組んだことは、現在の社会人生活の中でどの程度活かされていますか」という問いに対して、「とてもよく活かされている」「どちらかといえば活かされている」と回答したのは、外国語や神道を除く教養科目については全学部計が40・0％、経済学部25・2％、専門科目については全学部計が50・3％、経済学部47・4％、演習・実習については全学部計が41・7％、経済学部24・5％、卒業論文・ゼミ活動については全学部計が41・1％、経済学部34・8％となっています。総じて経済学部卒業生は全学平均よりも低くなっています。

学生時代に「大いに身についた」「どちらかというと身についた」と回答した人は、基礎的な教養・知識については全学部計が63・9％、経済学部58・5％、専門的知識については全学部計が62・2％、経済学部49・6％、課題解決能力については全学部計が46・6％、経済学部43・0％、討議・議論能力については全学部計が50・1％、経済学部39・2％、分析・研究能力については全学部計が48・5％、経済学部37・8％、プレゼンテーション能力については全学部計が37・7％、経済学部37・0％でした。「在学時に身につけておけばよかった」と思う知識や能力について経済学部卒業生があげたものは、プレゼンテーション能力が41・5％、討議・議論能力34・1％、課題解決能力24・4％、分析・研究能力22・2％です。「身についた」とする割合と「身につけておけばよかった」の割合を比較した場合、「身についた」とする割合の方が多いのは討議・議論能力、課題解決能力、分析・研究能力、「身につけておけばよかった」とする割合の方が多いのはプレゼンテーション能力となっています。これらの能力は相互に深く関連しているので、単純に理解することは難しいのですが、他者に伝える力の不足を感じている卒業生が多いようです。

学生時代に身についたと思う能力について、どのように感じているのでしょうか。「学生時代に身についたと思う能力として、以下の項目はどの程度当てはまりますか。」という問いに対して、「よく当てはまる」または「当てはまる」の回答を合わせた割合を「学生時代に身についたと思う能力」を示す割合と見なすと、次のような状況となっています。

情報収集力について見ると、「様々な情報の特性が理解できる」全学部計が38・3％、経済学部32・6％、「課題に応じて、どのような情報を収集すべきか判断できる」全学部計が44・6％、経済学部45・3％、「収集した情報の信頼性を適切に判断できる」全学部計が43・3％、経済学部35・6％でした。情報分析力については、「図表から、的確にその内容を読み取れる」全学部計が34・4％、経

PBLプレゼンテーション大会（H29.11.29）

懸賞論文表彰式（H30.1.23　経済学部長室）

済学部31・8％、「文章から、的確にその内容を捉えられる」全学部計が50・1％、経済学部38・5％、「図表や文章から読み取った内容を、論理的に整理できる」全学部計が38・9％、経済学部29・6％となっています。課題発見力の面では、「様々な観点から現状を捉え、問題点を見い出せる」全学部計が41・0％、経済学部32・6％、「問題点を客観的に整理できる」全学部計が43・2％、経済学部37・0％、「どの問題から解決すべきか、適切に優先順位をつけられる」全学部計が47・7％、経済学部25・9％です。構想力を示すものとして「様々な観点から問題の解決策を考えられる」全学部計が38・8％、経済学部32・6％、「諸々の条件を踏まえ、問題の解決に有効な方策を選択できる」全学部計が37・3％、経済学部32・6％、「問題解決の方策に沿って、具体的な行動計画を立てられる」全学部計が37・0％、経済学部27・4％という結果でした。

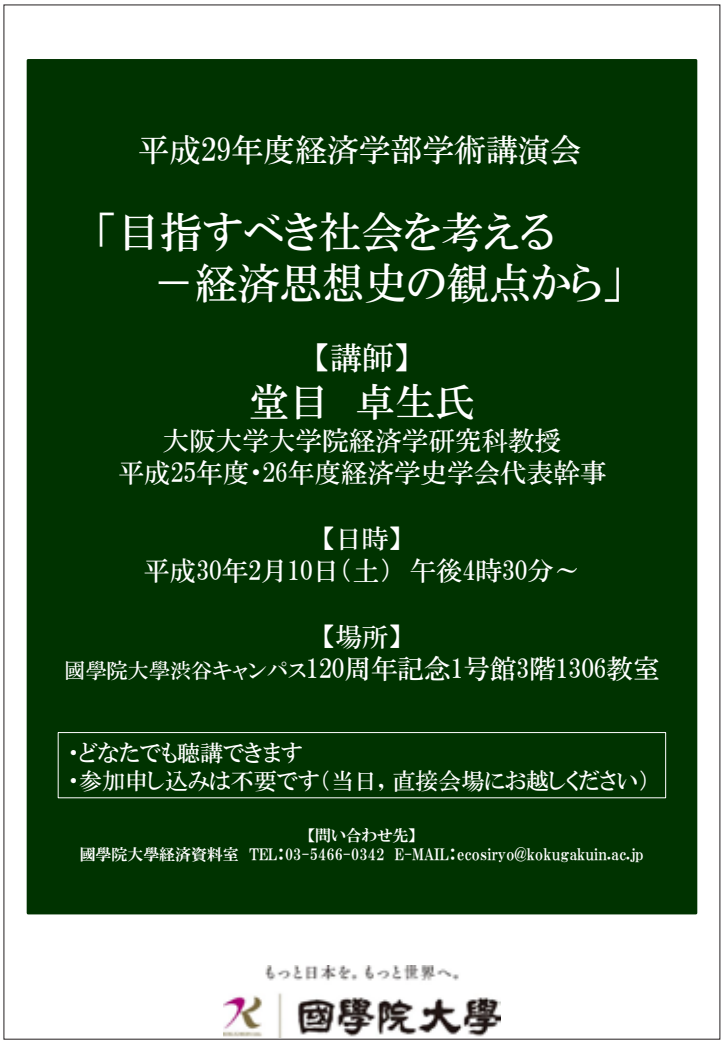
このように「学生時代に身についたと思う能力」として情報収集力、情報分析力、課題発見力、構想力について見ると、全学部計では4割前後が身についたとしています。経済学部だけでは、それより総じて数ポイントから10ポイント近く低くなっています。「文章から、的確にその内容を捉えられる」とする情報分析力や「どの問題から解決すべきか、適切に優先順位をつけられる」といった課題発見力については、経済学部が全学部計より12ポイントほど少なくなっていることが気がかりです。こうした能力について、在学時の学びを通じて身についたとする卒業生の認識状況からすれば、経済学部の授業を通じてこれらの能力形成を強化・促進するための工夫が求められていると言えるでしょう。

國學院大學に対する総合的な満足度を尋ねたところ、「とても満足している」「満足している」としたのは、全学部計が

懸賞論文表彰式記念撮影（H30.1.23　経済学部長室）

62・9％、経済学部51・9％でした。総じて「満足」しているとする卒業生が過半であるのは嬉しいことですが、その理由としてあげられているのは、最も多いのが「友人ができた」で全学部計が79・2％、経済学部78・68％、次いで「授業がおもしろかった」で全学部計が60・1％、経済学部44・3％となっています。経済学部は「授業がおもしろかった」が全学部平均よりも少なく、「サークル・部活動が充実していた」をあげた人が51・4％と2位にあがっています。授業に関しての評価は気になる点と言わねばなりません。

以上の卒業生調査に示される結果は、一部の卒業生の回答であり意識調査ですからその解釈には注意が必要ではありますが、今後、経済学部の改革を進め、学びを充実させていくために様々な示唆を与えるものです。他者に伝える力の不足を感じている卒業生が多い点については、2年前から「基礎演習」全クラスでグループワークを導入し、プレゼンテーション大会を開催するなど授業改善に取り組み、コミュニケーション能力や課題解決能力の育成に着手しています。こうしたことにとどまらず、現代の経済学部における学士課程教育として、何をどこまでどのように学ぶのか、質的保証として最低限身につけるべきことは何であるのかを問い、学部改革を推し進めていくことが求められています。卒業生のみなさまのご意見にも耳を傾けながら、学生の現状を踏まえつつ、今後のカリキュラムや授業のあり方など、学部改革へと積極的に取り組み、経済学部は進化を続けていきたいと思います。卒業生のみなさまに、忌憚のないご意見やお考えをお寄せいただければ幸いです。



経済学部開設50周年記念継続事業　学術講演会案内チラシ

従来から、経済学部は教育の現代化・情報化・現場化を進めてきました。21年前に打ち出して以降、様々な努力を続けて参りました。教育の現場化としては、12年前に開設した経営学科の「現代の企業経営」や本年度から開講したキャリア教育をねらいとした「経済学特論（雇用と働き方）」の授業で経営者や労働組合役員の方々をゲスト講師にお迎えし、現実の経営や仕事、就職についてご講義をいただいています。学生たちは、こうした授業に高い関心を持って受講しています。現在、本学部卒業生のみなさまのお力をお借りしながら、現実を知り学びを充実させることができないかなどの検討も開始しています。

経済学部の進化のためには、卒業生のみなさまや院友経済会と連携することが不可欠です。今後とも経済学部とともに歩んでくださいますことをお願いし、ますますのご協力ご支援をよろしくお願い申し上げます。

橋元　秀一
（HASHIMOTO, Shuichi）
國學院大學経済学部教授
平成4年本学着任
平成29年4月経済学部長に就任
専門分野「日本経済論」「労働経済論」「社会政策」など

故 松村 博先生を偲んで

院友経済会副会長　鍋田 英彦（74期）

院友経済会の礎を築かれた本学名誉教授の松村博先生が平成二九年一月十三日に亡くなられました。享年九三歳でした。ここに謹んで哀悼の意を表します。

葬儀は一月十七日に先生のご自宅のある千葉県津田沼駅近くの葬儀場で厳かに執り行われました。当日は厳冬にもかかわらず穏やかな晴天に恵まれ、多くの関係者に見送られての永久の旅立ちでした。ご家族によると、先生は亡くなる前日までお元気で、前夜は早めに床に着かれたようですが、翌朝に亡くなられたそうです。まさに天寿を全うされた生涯だったと思います。

3・4年生合同のゼミ合宿旅行　ー松村先生を囲んでー

先生ご夫妻の仲人で結婚した私たち夫婦は棺に納められた先生の穏やかなお顔に最後のお別れをさせていただきました。会場には松村ゼミ同期で仙台市から駆けつけた遠藤欣也さん、ゼミ先輩の安藤英明さん、本学職員だった市川義輝さんなど、何人かの懐かしい方々のお顔がありました。先生の棺は遠藤欣也さんたちと霊柩車までお運びしました。その棺の重みは今でも体感しています。

松村先生は経済学部の前身である政経学部の同窓会を昭和三十年に有志と共に発足させ、二年後にその同窓会を院友政経会という名称にして、その後の長きにわたり組織を牽引されてきました。院友政経会は平成十三年に現在の院友経済会に名称が変更され、そして平成二八年に発足六十周年を迎えました。その意味で松村先生は当会の生みの親であり、育ての親とも言うべき存在でありました。

しかし、その間の歩みは容易なものではなく、何度か頓挫したと語っておられました。当時の院友政経新聞（平成八年十月十五日付け）に「院友政経会の継続的発展を期待する」と題する松村先生の一文が掲載されています。そこには次のような想いが綴られていました。

そもそも院友政経会は層の薄い新設学部の卒業生が不利な点を補い合うために団結する狙いで発足したそうです。しかし院友会からは分派活動を始めたと誤解されて学内の扱いは冷たいものだったし、会合の集まりも悪く、運営資金もなく、何一つ良いことはなかったと述懐されています。その間、学部の木村太郎先生等からの励ましもあったようですが、やむなく活動を一時期停止したことがあったと言います。ただ全学の院友会では果たしえない学部の同窓会のあり方とは何か、幹事役の平山八郎さん（六二期）など有志と検討し、その結果、現在の組織体制と活動の枠組みが築かれたようです。そこには機関新聞・機関雑誌の年一回発行、総会・懇親会の開催、学部行事の支援、院友会館改築資金の募集協力などが行われたとあります。これらの活動は現在に受け継がれていますが、先生の指摘された継続的発展をどのように実現していくか、それは現在の院友経済会に投げかけられた課題です。まさに「継続は力なり」であり、我々にはその実現に向けた取り組みが問われています。

ところで、私と松村先生との出会いは経営学ゼミを志望したことに始まります。当時、産業界では経営学ブームが巻き起こっていました。学部の性格から経営学関係の科目が少なく物足りなさを感じていたので、ゼミには積極的に参加しました。ゼミはテキストの輪読が中心でしたが、米国企業におけるテーラーの科学的管理などを学びました。

私はそれまで勉学に熱心ではありませんでしたが、経営学を学んだ証を残しておきたいと考え、学部の懸賞論文に応募

したことがありました。投稿のテーマは「現代経営者の社会的責任に関する考察」。その時期、東京オリンピックの開催と重なっており、世の中はオリンピックに沸いていました。そのためか、懸賞論文の応募者が少なく、幸運にも二席に入って賞金をいただきました。いま思えば、とても論文とは言えない内容でしたが、達成感を味わった思い出があります。ゼミ活動を振り返ってみると、ゼミコンパやゼミ旅行のことが思い出されます。湯河原や蓼科高原でのゼミ合宿、仲間と先生宅にお邪魔して、当時、高価だったすき焼きをご馳走いただいた思い出もあります。先生宅での飲み会では痛飲して羽目を外すなど、ご家族にご迷惑をおかけしましたが、先生ご夫妻は変わらずに私たちに接してくださいました。

鎌倉大仏前にて　ー松村先生を囲んで左側が筆者ー

先生は何事にも親身になって対応される方で、温情で包容力がある方でした。後年、ご家族が世田谷のお宅から千葉県の習志野市に住まいを移されるときに、新居の購入から引越しに関わる手配を不動産会社や運輸会社、金融機関等に勤めていた諸先輩たちが分担して取り仕切ったと聞いています。当時を振り返って、奥様が「私たち家族は労せずして新居に移ることができました」と、感極まって語っておられたことを思い出します。それは卒業生たちの感謝の気持ちだったのでしょう。正月には卒業生がお祝いにお宅を訪れるのが恒例でした。

人生には進学、就職、結婚など幾つかの節目がありますが、私はこの節目において松村先生のお世話になりました。三十歳を過ぎた頃、先生から見合いの話があり、当時、常磐松校舎にあった先生の研究室で見合いをすることになりました。見合いの場はホテルが一般的なはずなのにと思っていた私の気持ちを察してか、先生は「この研究室は縁起が良いから」と言われ、当日は先生ご夫妻と私たちが向かい合い、奥様が用意された弁当を食べながらの不思議な見合いになりました。蔵書に囲まれた狭い研究室がコミュニケーション効果をもたらしたのか、半年後に私たちは結婚しました。挙式は馴染みのある高輪プリンスホテルで行いました。今や結婚して四十余年。あの時、先生の言われた「この研究室は縁起が良いから」という言葉の通りになりました。

もう一つの節目の就職でも、松村先生のお世話になりました。財団法人流通経済研究所の研究員募集に応募するため、先生に推薦状を書いていただきました。それが功を奏したのか、浅学非才の私が研究助手で採用されました。私は二十年余にわたり同研究所に勤務し、理事長で学習院大学教授であった田島義博先生（後に学校法人学習院院長）を始め、諸先輩方から流通・マーケティングの研究指導をいただき、業績を積むことができました。研究プロジェクトを通じて研究者や産業界の方々との人的関係を築けたことも大きな収穫でした。

四十歳半ばに田島先生の推薦で新設の新潟産業大学の教員審査（文科省判定）に合格して教職の道を歩むことになりました。

教職に就いて、私も学生教育、ゼミ指導に力を注ぐことを心がけました。グループ別の調査研究、論集作成、卒論指導、合宿旅行、ゼミコンパなど。そのせいか学生相互の交流は活発で、まとまりは良く、ゼミの運営は彼らの自主性を尊重するようにしました。後に新潟産大のゼミ生同士の結婚が六組ほど誕生したのには驚きました。私のゼミがカップル誕生の場になろうとは思ってもおりませんでした。今では卒業生との再会や年賀状などの便りに眼を通すのが楽しみになっています。どうやら、弟子は師に似るのかもしれません。

人生は出会いです。あらためて、今は亡き二人の師との出会いに感謝したいと思っています。

鍋田英彦
(NABETA, Hidehiko)
昭和四十一年、國學院大學政経学部卒業。
財団法人流通経済研究所 主任研究員、常勤理事を経て、新潟産業大学教授、同経済学部長、新潟大学大学院兼任講師、東洋学園大学教授。その間、玉川大学、学習院女子大学兼任講師。現在、新潟産業大学名誉教授。
専攻は流通システム、マーケティング戦略。
大学時代に博物館学芸員の資格を取得。史跡巡りの旅、芸術鑑賞が趣味。

平成29年度 経済学会学生懸賞論文 講評

経済学部准教授　細谷　圭

本年度の経済学会学生懸賞論文には23本の応募があった。昨年より応募総数が減少したものの、個性あふれる意欲的な論文が多く寄せられた。学生にとって身近な関心・問題から国内外における経済や経営の最先端で起こっている事象まで幅広いテーマの論文が寄せられ、質的に充実したものが多く見られた。本年度は、4年生からの応募が多かったことが特徴である（18本）。上位入賞はいずれも4年生であり、充実した卒業研究が行われていることの証左といえるだろう。3年生からは5本の応募があったが、内4本は共著論文であり、本学部が近年重視しているグループワークの成果がこのようなアカデミックな部分にも表れていると考えられる。なお、ゼミナールに所属していない学生からの応募もあり、経済学部生の主体的な学びを高く評価するところである。

論文の審査は、論理性、独自性、専門性、文章表現の四つの個別的観点からの評価に加え、総合的観点からの評価も加味して厳正におこなわれた。審査には経済学部のほぼ全員の専任教員があたった。その結果をもとに、経済学会総務委員会が慎重な審議をおこない、最優秀賞（1本）、優秀賞（3本）、佳作（5本）、特別賞（3本）を選出した。

以下に、最優秀賞1論文と優秀賞3論文に限定して、論文の概要と評価されたポイントや課題について記しておきたい。

最優秀賞を受賞した安達圭音さん（経営学科4年）の論文「米のブランド化の効果とその課題」は、はじめに競ってブランド米が登場してきている背景から説きおこし、ブランド構築において重要となる要因をおもに経営学的な視点から指摘している。論文前半で展開されている背景分析は手堅いものであり、分析対象への良き導入の役割を果たしている。また、ブランド論の検討にあたっても、一般的な製品やサービスにおける場合と農産物における場合とでは大きな違いがあることが指摘されていて説得力がある。農産物のブランド化においては、農産物の生産特性に由来する困難性が潜んでいるとの著者の考察は的確である。論文後半では、ブランド米として定着した感のある山形県産米「つや姫」、新興勢力の青森県産米「青天の霹靂」に焦点をあて、それらのブランド化戦略について事例研究をおこなっている。興味深いのは、「つや姫」が満たしていると考えられるブランド化の4条件が、「青天の霹靂」では未だ満たされていない可能性が高いとの考察である。これに基づいて、「青天の霹靂」が中・長期的にブランド米として成功を収めるための具体的な提案が示されている。安達論文は、上記審査基準において、とくに論理性、専門性、文章表現においてきわめて高い評価を得ており、学術的にも高く評価される論文として、他の論文を引き離して最高得点を獲得した。とりわけ、「青天の霹靂」の事例研究に際しては、十分な時間を確保して青森県庁担当部局から入念なヒアリングを実施しており、質の高い論文を作成することへの著者の並々ならぬ意欲がうかがえた。

優秀賞を受賞した出口直人さん（経済学科4年）の「CSV経営に関する批判的研究」は、CSV経営に焦点をあてながら、企業が果たすべき社会的責務について理論的，実証的考察を試みている。経営手法のベクトルとしてのCSV経営においては、社会的ニーズに沿った社会的価値の創造に邁進することが、結果として経済的価値の創造にも結実するというストーリーが導かれる。これはいわば「迂回生産の利益」と捉えることができよう。著者はCSV経営に付随する「ゆらぎ」に着目し、その問題点について定量的分析をまじえて批判的に考察している。問題意識、議論の展開は学部学生として秀逸であり、十分に評価されるべきものである。一つ残念だったのは、仮説検証に際してのデータや統計的手法が不十分だったことである。少し専門的になるかもしれないが、内外の優れた先行研究を渉猟し、そこで行われている実証手法を正確に理解して本論文に適切に援用すれば、さらに質の高い論文となることは間違いない。

同じく優秀賞を受賞した澤田凌さん（経済ネットワーキング学科4年）の「改葬ビジネスの動向～終活ビジネスの拡大を背景に～」は、マスコミでも近年しばしば取り上げられる「終活」の背景要因を探り、終活のひろがりを受けて拡大してきている新たなビジネスの動向に注目した時宜にかなった興味深い論文である。終活の認知度の高まりを導きの糸とし、無縁社会化、多死社会化、死生観の変化といった個人、家族、そして社会の変容を豊富なデータを適切に提示することによって読み解いている。論文のメインテーマである改葬ビジネスに関しては、研究アプローチの特性上必要と判明した聞き取り調査を実行し、論文の主張をより興味深いものにすることに成功している。丹念な調査・執筆姿勢は高く評価できる。しかしながら、論文のストーリーが不明瞭である部分も少なからず見受けられた。たとえば、無縁社会化との関連を議論するならば、通常の改葬ではなく、永代供養への改葬といったいわゆる「墓じまい（廃墓）」にこそ焦点をあてるべきであろう。

同じく優秀賞を受賞した倉橋弾さん（経済学科4年）の「敵対的買収の財務分析」は、フリーキャッシュフロー仮説に基づいて、どのような特徴をもつ企業が敵対的買収のターゲットになりやすいかを検証している。加えて、敵対的買収がなされたことにより、財務内容にどのような変化が生じたかを分析している。一般に日本のビジネス風土では、その名称にも端的に表れているように、敵対的買収は企業買収の手法として必ずしも良い印象はもたれていない。こうした背景のなかで、著者は自分なりの「善悪」を定義して、敵対的買収の事例研究を試みている。学部学生の論文としては適切な分析道具（理論的ツール）の選択がなされ、論文の構成内容も興味をかき立てられるものに仕上がっている。とはいえ、肝腎の事例研究において内容の薄さが感じられる箇所があったり、考察が明確でない部分もあったりした。また、フリーキャッシュフローの数字のみにしか注目していない点も問題であり、より良い論文を目指す上での必須の改善ポイントとして指摘できる。

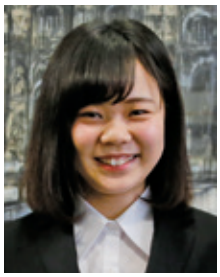
ここに取り上げた4論文をはじめとして、懸賞論文にふさわしい質の高い論文が多かったというのが評者の率直な感想である。佳作が5本、特別賞が3本という結果がそれを物語っている。また、最優秀賞と優秀賞に選出された4論文は、選外となった論文と比較すると、研究論文としての総合的な完成度が高い水準に達しており、先行研究からの借り物の内容ではなく、自らの言葉で丁寧に語られているという点に違いがあるように思えた。

すべての論文執筆者の努力に敬意を表するとともに、次年度も力のこもった内容豊かな論文が数多く寄せられることを期待したい。

平成29年度経済学会懸賞論文　受賞者一覧

審査結果	所　属	氏　名	テ　ー　マ
最優秀賞	経営4年	安達　圭音	米のブランド化の効果とその課題
優秀賞	経済4年	出口　直人	CSV経営に関する批判的研究
	ネット4年	澤田　凌	改葬ビジネスの動向　～終活ビジネスの拡大を背景に～
	経済4年	倉橋　弾	敵対的買収の財務分析
佳　作	経営3年	津村　唯 戸田　優香 二宮　みずほ	変化するカフェ業界とサードウェーブ企業の台頭
	経済・経営3年	会田　優介 島田　大成 渡邊　杏奈	予備校ニーズ減少の背景と時代に対応する指導形態 ―市場の落ち込みに対応する戦略―
	経済4年	藤枝　彩恵	IFRSのリース会計基準変更による航空業界への影響
	経済4年	池田　優香里	成功し続けるSPA企業の財務的特徴
	経営4年	小松　由芽子	銀行業の繰延税金資産の実態　―りそな銀行の国有化問題に着目して―
特別賞	経済・経営3年	萩原　甲斐 川口　遥夏 吉田　啓貴	渋谷区のバリアフリー基本構想策定への提言
	経営3年	倉田　航輝	日本における多文化社会に向けて ～神奈川県央地域での外国人に対する対応をモデルとして～
	経営3年	寺内　鷹生 峰　尚弘	PlayStation 3の販売台数回復とその背景

■提出総数23（内訳：4年18、3年5）　最優秀賞1　優秀賞3　佳作5　特別賞3



最優秀賞受賞に寄せて
「米のブランド化の効果とその課題」

経済学部経営学科4年　安達　圭音

◆論文の紹介

本論文は、米のブランド化の実態を明らかにし、その効果と今後の課題について取り扱っています。近年、米の市場ではブランド米が注目されています。ブランド米急増の背景には、年々米の消費量が減少する中でいかにして勝ち残っていくかを考え、県を挙げてブランド米に力を入れている地域が多いためであると言われています。

ブランド米として成功するには一般的なブランド構築の条件を満たしていることはもちろんですが、農産物のブランド化におけるいくつかの障壁をクリアする必要があり、米をブランド化させることは容易ではありません。論文中では、上述の点を踏まえてブランド確立の途上にある青森県産米の「青天の霹靂」の実態や課題を明かにし、改善策を検討しました。

現在続々と新しいブランド米が登場しており、今後その競争はより激化いき、不十分なブランド化戦略では生き残るのが難しいと考えられます。米をブランド化させるためには長い時間と労力が必要ですが、ブランド化を成功させることが出来れば日本の米農家を守る1つの手段になるでしょう。

◆学生生活

2年次後期から私は田原ゼミに所属し、座学だけでなくフィールドワークを行い、多くのことを学ばせていただきました。特に印象に残っているのは3年次に参加した「神奈川県産学チャレンジプログラム」というビジネスコンテストです。チームメンバーとともに「シャッター商店街の再生」というテーマに取り組み、シャッター商店街に賑わいや利益を創出することが出来る施策を提案しました。近年の商店街の衰退の要因はどういった点にあるのかということを整理したうえで、実際に商店街に赴き調査を行いました。夏休みにはほぼ毎日学校に集まり、帰宅後も連絡を取り合いながら論文執筆やプレゼンの準備を進めました。その結果、優秀賞を受賞することが出来ま

平成29年度懸賞論文表彰式（2018.1.23　経済学部長室）

した。

◆最後に

論文の執筆にあたり、ゼミナールの田原裕子教授には並々ならぬご指導を賜りました。お米が好きという自分の興味から始まった論文でしたが、田原教授の厳しくも温かいご指導を頂きながら進めたことで、最優秀賞をいただけるような論文に書き上げることが出来ました。田原裕子教授をはじめ、共に健闘した同期の仲間、卒業後も相談に乗ってくださった先輩方、大切な後輩、悩んでいるときに支えてくれた家族や友人、論文を評価してくださった教授の皆さまに、この場を借りて心より深く感謝を申し上げます。

田原ゼミ春合宿の風景

田原ゼミ夏合宿（2017.9.6〜8　伊東にて）

安達　圭音
（ADACHI, Keito）
経済学部経営学科
出身地　新潟県長岡市
出身校　長岡向陵高等学校
所属ゼミ　田原裕子ゼミナール
就職先　食品メーカー

「働く事を考え抜いた4年間」

経済学部経済学科　鈴木　正義

大学までの人生

私は、高校まで野球に明け暮れる日々を送っていました。中学までは、プロ野球選手を夢見て、とにかく野球が大好きで我武者羅にプレーをしていました。しかし高校入学と同時に、周囲とのレベルの差を痛感し、挫折を経験しました。最終的には、スタメンになる事が出来ましたが、甲子園出場という夢には全く届きませんでした。ただ、高校球児なら誰でも平等にある5回の甲子園出場のチャンスに、必死に挑戦できた時間は本当に幸せでした。私の人格は、野球と両親の教育から形成されていると言って間違いありません。私に夢を与え、組織で挑戦する事の難しさ、世の中の広さ等、数多くの事を教えてくれた野球と生意気で言う事を聞かない私に根気強く説教をしてくれた両親がいたから今の私があります。本当に感謝で一杯です。

ゼロからのスタート

大学でも野球を続け、準硬式野球部に所属していましたが、二年生の終わり頃、大きな怪我をして野球が出来なくなり、将来の仕事や人生について真剣に考えるようになりました。とは言っても、勉強もろくにせず、野球しかやっていなかった私には就職の事を考えようと思っても、何も分からなかったです。ただ、大好きだった野球でだけは、毎日上手くなる為、挑戦を成し遂げる為に試行錯誤を行い、練習に励んでいた事を思い返しました。だから、この先の数十年を捧げることになるかもしれない仕事を真剣に探す事にしました。まず、本屋に出向き、興味のある本（ビジネス本を中心）を手あたり次第購入し、1年間で１００冊以上の書籍を読みました。そして、自分自身が何気なく生きてきた21年間を振り返ったり、情報番組を毎日のように見ました。その結果、数多くの業界知識や就職活動の情報を吸収する事が出来、これらから就職において考えるべきポイントは、お金・福利厚生・やりがいの内どれを重視して会社を選ぶかだという考えに至りました。

そして、私が求めている事は「やりがい」であり、「夢をもって働ける仕事」でした。というのも、これまでの人生で野球以外に長続きした物は何一つなく、野球が長続きした理由は常に夢や目標があり、楽しさを感じられていたからだと考えました。なので、仕事も何歳になっても大きな夢や目標・楽しさを持ってないと続かないなと考えました。

不動産デベロッパー業界を目指す

私は自分なりに勉強を進めていく中で、まず初めに観光産業に興味を持ちました。というのも、日本の観光産業はまだまだ成長途上であり、上手くいけば観光客数で世界一を狙えるかもしれないという見解を書籍で目にしたからです。非常に具体的で説得力のある内容で、私も日本の観光産業を世界一にすることに貢献したいと考えました。そこで、ホテルや旅行業界の書籍を購読したり、ホテルのフロントで実際にアルバイトを始めたり、ゼミで観光分野の研究を行いました。すると、ＢtoＣのサービスとしてのプロになっても産業全体を動かす事は出来ないなと感じました。そして、ホテル建設・ホテル運営体制整備・外国人が訪れたくなるような街作り・外国企業の働きやすいオフィス開発が出来るのは不動産会社だと考えました。それだけでなく、自らの生まれ育った街で大規模な再開発が行われ、数万人単位でオフィスワーカー・居住者・学生等が増加し、街が変貌を遂げていく姿を目の当たりにした経験からより多くの人々に圧倒的なインパクトを残せる仕事であると確信しました。以上から、世界一の観光立国への貢献と圧倒的な創出力で日本の人々の生活を変化させる事の出来るこの業界を志望するに至りました。

厳しい現実と覚悟

私はまず、インターンシップの選考に大手・中堅不動産会社全てに応募しましたが、通った会社は夏秋冬で2社のみで、本当に狭き門であるという事を心の底から実感しました。ただ、私の覚悟は決まっていたので、全力でやって落ちたら仕方ないと割り切っていました。もちろん不安もありましたが、長い人生の一時だと思って、ここで失敗しても人生が終わるわけではないと考えれば、精神的に折

れる事はありませんでした。

そして、覚悟を持って本選考に臨んだ結果、第一志望の会社から内定を頂けました。内定の握手をした時は、やっと自分の事を理解してくれる会社があった事に感極まって、泣いてしまいました(笑)。私の就職活動は成功でした。内定を頂いてから周囲に褒められることが増えましたが、それに満足することなく、しっかり働いて「やはりあいつは凄い奴だな」と言ってもらえるようになりたいと思います。

人生ってどうなるかわからない

内定を頂いてから数か月後、私の同級生が病で亡くなりました。本当に信じられなかったです。彼は総合商社から内定を貰い、成し遂げたい夢があったそうです。その事を伺った時、自分もいつまで生きてられるか分からないけれども、生きているだけで挑戦権と可能性を自分は持っている事を痛感しました。毎日生きている事と挑戦できる事に感謝して、これから仕事でスケールの大きな誰も思いつかないような事に挑戦していきたいと思います。いつか多くの人々に夢を与えられるくらい有名になって、皆さんとお会いできるように頑張ります。

最後に4年間どんな形でも、私とお付き合いしてくださった皆様に、文面で大変恐縮でございますが、心よりお礼申し上げます。ありがとうございました。

鈴木正義
(SUZUKI, Masayoshi)

所　　属：経済学部経済学科
出身高校：國學院大學久我山
ゼ　ミ：小木曽道夫ゼミナール
部　　活：準硬式野球部
進路予定：大手不動産ディベロッパー

準硬式野球部　2015年秋の大会を終えて　朝霞市営球場

俳諧の茶事

三浦　侃（75期）

東京の開花宣言がなされたとはいえ、平成二十九年四月一日（土）の小田急線町田駅は、小雨がぱらつき肌寒さを感じる天候でした。本日の俳諧茶事の招待をうけた佛渕雀羅さん、浅賀丁那さん、松澤龍一さん、木之下みなみさん、そして筆者の私は三々五々町田駅に集まり、本日の席主飯島宗弘さんの待つ芳樹庵に向かった。

俳諧茶事とは、俳句や川柳の原点である連句と茶の湯のもっとも大切な根幹となる茶事とが融合したもの。今回は茶事のなかでも、正式厳粛な「正午の茶事」で俳諧茶事が行われる。

飯島宅に到着した客はまず待合に通り、身支度を整える。そして席主の高弟で今回席をご一緒される敷山草馬さんも加わり白湯をいただく。窓からは隣地の養雲寺の桜の高木が望まれるが、あいにく今年は開花が遅く、まだ数輪花が春の訪れを伝えるだけ。満開の時には花の雲の下でのお茶会となったことであろう。待合の床は「春の水ゆるゆる流れきて早し」の掛物。お地蔵様の俳画が添えられている。

本席の掛軸

正客から順次腰掛待合に席を移し亭主の迎付を待つ。この頃になると朝方の雨も上がり、茶庭の緑が一層風情を増している。心なしか池の水量も増え、池の鯉も活発に動きまわっているようだ。静かに路地の風情を楽しんでいると本日の亭主田畑宗勝さんが迎付に出てこられ、お客の皆さんは飛び石を渡り、手水を使ったあと、躙戸を開け順次席入りをする。このあたりからお茶の作法に馴れない者は戸惑いもあるが、連客同士和やかな空気の中俳諧茶事の開始である。

本席の床には、大徳寺六代管長円山伝衣老師の一行「萬里清風只吹丈」が掛けられている。主客の挨拶のあと、客は前に置かれた小箱（中には硯、墨、筆、水が入っている。）の蓋を開け、おもむろに墨を擦り始め短冊を書く準備にかかる。本日の執筆は浅賀丁那さん。脇に文台、奉書紙が置かれている。本日の連句は表十句、裏八句の十八韻。この形式は十八公（じはっこう）といい、おめでたい時や改まった時などに行うものだと丁那さんに教えて頂く。そういえば松と言う字を分解すれば十八公となる。連句もなかなか奥が深い。

発句は予め正客の侃が詠み、脇を草馬さんが詠まれている。三句目からは連衆が順次付句を付けていく。

弟妹は春手袋を貸し合うて　　**雀羅**

ミルクの色の卸大好き　　**丁那**

今日の茶席の棚は旅箪笥。このお点前は、豊臣秀吉が北条氏を攻めるため石橋山に一夜城を築いたとき、千利休が秀吉のため屋外で行ったお点前という。釜は山本閑浄造りの茶飯釜「飢来飯　渇来茶」と印されており、天井から鎖で吊り下げられている。亭主の宗勝さんが旅箪笥から麻袋に入った洗い米を茶飯釜に流し込み、水加減を見て釜を吊っている鎖を調節。火吹竹で炭火を吹く頃には一気に座は和み、句座の話題も盛り上がってくる。

膳が運ばれる。向付は鯛昆布締、花山椒。今日は茶飯釜で炊かれたご飯をいただくのである。席主の趣向に期待が膨らむ。そして燗鍋と盃が持ち出され、杯事（お酒は名酒久保田）がはじまる。正式な作法はつい置き忘れ、ご連衆の顔が思わずほころんでしまう。八寸は海のもの（からすみ）山のもの（たらの芽）ともに旬の味をおおいに味わう。句座は雀羅さんの捌で進む。

ものの芽やカンタービレの水の音　　**侃**

蝶の導く紫折戸の先　　**草馬**

学舎の窓辺を覗く望の月　龍一
親にはぐれて鶉鳴くなり　みなみ
曲り尾の猫の立ち寄る檸檬の木　草馬
チンドン屋にも後継ぎができ　雀羅
アドバルン浮世のことは知らぬ顔　侃
ビル屋上にビール飲み干し　龍一

御飯が炊けるまでご亭主の心のこもったお進肴が供される。蕗、筍、木の芽と合わせた豚角煮。椎茸、人参、菜の花の白和え。烏賊、独活と若布の酢の物。春の訪れを感じさせる取り合わせになっている。

いよいよ御飯が炊きあがり、釜の蓋を開けると馥郁とした香が茶席を包み込んでくれる。道明寺真薯の湯葉巻の煮物椀には蕗、筍そして桜と春がいっぱい。焼物は鰆の山椒味噌焼。

季節が溢れた海のもの、山のものを心をこめて供された本日の膳。心まで満ち足りた最高の贅沢なおもてなしでした。

湯と香の物で湯漬けをいただき、器を懐紙で清め、正客の合図で一斉に箸を膳の内側に落す。コトッという箸の落ちる音が懐石の終わりを告げている。主菓子（亀屋製さくら饅頭）をいただき仲立となる。

雨も上がった腰掛待合の路地は、緑が一層鮮やかさを増したようである。後入りの合図の銅鑼が打たれ席入りとなる。

後座は軸が外され、利休梅と椿が竹の花入れに活けられている。連句も名残の折に入り、捌の雀羅さんの助言をいただきながら、おのおの短冊に付句を墨書する。左手に短冊を持ち、馴れない筆に四苦八苦の連客もいる。

涼しげな声響かせる君の名は　丁那
嘘つく時も夫唱婦随で　草馬
茶稽古のきりりと締める博多帯　みなみ
玄界灘の雪を見にゆく　雀羅

茶事は濃茶。張り詰めた静寂の中亭主が濃茶を練ってゆく。やがて客は良質で上品な香りと甘みも感じるまろやかな味わいを楽しむ。

濃茶をいただいた後お道具を拝見。

水指　檜原焼　加藤明誠造
茶入　大海　桶谷定一造
仕服　利休梅
茶杓　長谷川寛州老師作　銘花暦
茶碗　鼠志野　晴雲作
濃茶　万暦の昔　伊藤園詰

春の訪れを喜ぶ気持ちが溢れた道具組。席主の演出が心憎い。後炭、薄茶点前と茶事は進む頃、連句もいよいよ終盤を迎える。

このあたり金の印　丁那
章出たと聞き　龍一
おさげの少女ふら　侃
ここで飛ぶ

み仏の笑み持つ母の花暦　みなみ
数式を解く囀りの中

めでたく十八公一巻が巻き上がった。披講を聴いている連衆の顔には安堵と満足感があふれている。茶事の方も薄茶点前は終わり、席主の飯島宗弘さんとお手伝いをされた亀田宗和さん、中田宗美さんも席に入られ和やかに歓談の時を楽しむ。お薄点前の主な道具組みは

棗　吹雪　中村湖彩作　春の野
主茶碗九谷焼　桜
替茶碗萩焼
　京焼　夜桜
薄茶　宝尽の白　伊藤園詰
干菓子花かがり　鶴屋吉信製
和三盆　伊藤園製

待合掛軸

俳諧と茶の湯に関しての話題は、尽きることなく和やかな盛り上がりをみせ、気が付くと夕闇が迫る頃となっていた。座を参加者全体で盛上げ、そのひと時を楽しむ連句と茶道の神髄に少し触れることが出来たような一日であった。あらためて本茶席をお作り頂いた皆様、連句にご参加された皆様に心より感謝申し上げ筆を置きます。一期一会。

三浦　侃
（MIURA, Tsuyoshi）
昭和四十二年三月経済学部卒業（七五期）
塚谷ゼミ（日本経済史）
茶道研究会に所属、塩月弥栄子先生に師事。
現在、俳句結社「軸」同人。現代俳句協会会員
全国俳誌協会会員
野田市連句会会員

院友経済会企画　スペシャルトークショー

～元千葉ロッテマリーンズ：渡辺俊介投手を迎えて～

平成29年11月18日（土）15：00 ～ 16：00
渋谷キャンパス2104教室

報告：院友経済会理事　広瀬 健一（109期経済学部）

院友経済会の平成29年度定例総会にあわせて「院友経済会トークショー」を平成29年11月18日（土）15時より渋谷キャンパス２１０４教室において開催しました。

近年では、本会にまつわるイベントとして、ビジネス界でご活躍の卒業生にご講演をお願いすることが多かったですが、今年度は趣向を変えて、実業団・プロ野球で活躍され、オリンピックやＷＢＣ（ワールド・ベースボール・クラシック）にも出場された、渡辺俊介氏（107期哲学科卒）をお招きしてのトークショーを開催しました。

当日の司会進行は、元ニッポン放送アナウンサーの宮田統樹氏（73期政経学部卒）にお願いをし、お二人の軽妙かつ内容の濃いトークショーとなりました。

紙面の都合上、全ての内容を網羅することが出来ないので、中でも特に印象に残った内容を渡辺氏のキャリアの時系列に沿って、記させて頂きます。

〈高校時代〉

國學院大學栃木高校で2番手ピッチャーでした。同じチームにエース・4番でキャプテンの小関選手（後に西武ライオンズ・読売ジャイアンツ・横浜ベイスターズで活躍）がいた他にもドラフト候補が5人位いました。本気で日本一を目指せるチームだと思っていましたが、夏の甲子園予選3回戦で敗退してしまいました。高校野球がリーグ戦だったら日本一になれるチームだったと思いますが、一発勝負のトーナメント戦の難しさを知りました。

日本の野球ファンは、明日が無いトーナメントの戦いが好きだと思います。世界中で高校スポーツにここまで注目する国は他にありません。それだけ注目される、恵まれた環境で出来るということは大切ではありますが、怪我や高校時代に注目され過ぎてしまってその後のキャリア形成で失敗するケースがあるという問題点もあります。このような高校野球の問題点を改善していかないと、いずれ日本の野球はメジャーリーグに飲み込まれてしまうという危惧を海外で野球をしたことがある仲間は持っています。

プロ野球では、ベストパフォーマンスを毎日維持して、トーナメントの戦いを一年続けるというのは体がもちません。かといって、試合数が少ないと収入が減ってしまいます。このバランスを改善しないと日本のスポーツは衰退してしまうという危惧もあります。

今私が社会人野球に戻ってきたのも、唯一大人がトーナメントで野球人生を賭けて戦う場所が社会人野球であるからです。

〈大学時代〉

大学時代は、東都大学野球の万年2部でした。大学2年生の時に竹田監督（現総監督）が着任されて野球部を改革しました。竹田監督になり、厳しい練習を覚悟していましたが、実際にはミーティングルームでの授業が多く、練習時間よりもミーティング時間の方が長かったです。ミーティングでは、基礎を学んだ後に、自分の考えを自分の言葉で言わされました。このことは、最初は大変でしたが、慣れてくると様々なことに自然に気が付くようになりました。

大学野球は、リーグ戦なので、負ける

ことも出来ますが、勝ちにつながる負け方、次につながる負け方にどのようにするかを指揮官は考えなければいけないと思います。

〈実業団時代〉

新日本製鐵君津の実業団時代に、たまたま先輩の代わりに投げた試合で活躍することが出来、そこからオリンピックに出場、プロ入りとつながりました。その試合で負けていたら今の私はいなかったと思います。

実業団時代にシドニーオリンピックに出場することが出来ましたが、オリンピックの壮行会に総理大臣が来て、挨拶をされているのを見た時に国を背負っているんだと意識しました。一方でWBCは野球の大会なので、国を背負っているというより、日本の野球ファンや日本の野球の意地という意識の方が強かったです。

司会：宮田統樹氏（73期政経）

シドニーオリンピックの時は、現地で野球場が足りず、クリケット場に柵を作って急きょ野球場にしていました。観客も野球を知らない人が多く、試合をしていても緊張感が無かったのですが、カメラを通じて日本で沢山の人が見ているという目に見えない緊張感はありました。

プロ野球選手には子供の頃からなりたいと思っていましたが、現実的にプロを目指しても良いと思ったのが、シドニーオリンピックの時でした。プロ野球の選手とプレーをして、それ程の差を感じなかったことと、プロの選手に今のボールはプロでも通用するぞと言われたことが自信になりました。

〈プロ野球時代〉

ドラフト4位で千葉ロッテマリーンズに入団しましたが、最初はなかなか勝てなくて苦労しました。当時は、アンダースローの手本があまりいなかったので、どうすればバッターを抑えられるのかという研究に苦労しました。この研究も、プロでは誰かに聞くというのではなく、自分で答えを見つけていくという作業が多かったです。この時、同じタイプのピッチャーではなく、1軍でずっと活躍しているピッチャーから、なんで抑えられるのだろうかというヒントをもらうようになって勝てるようになりました。ここでは、考え方を学ぶことが結果的に自身のフォームにもつながりました。ただ速い球を投げるのではなく、どうやったら打たれないのか？試合を作ることが出来るのかをバッター目線で考えることが必要であるとプロになってから気が付きました。また、プロでは勝ち星よりも自分が求められることにこだわるようにしました。これは、勝ち星にこだわると欲が出過ぎてしまうからです。

2006年にWBCの代表に選ばれた時は、代表選考もシーズン中に慌ただしく行っていたので、福岡ソフトバンクホークスとの試合前練習中に福岡ソフトバンクホークスの練習を見ていたら王監督が歩いてこられて、いきなり「WBC宜しくな」と握手され、その場で出場が決まりました。

2006年のWBCの時はアメリカで野球が出来るという高揚感と、日本人が沢山応援に来てくれていたことで、楽しさしかありませんでしたが、2009年のWBCの時は、絶対に優勝して来いというプレッシャーを感じました。

2006年の時は、憧れの海外選手が目の前にいることで日本のベンチが雰囲気に飲まれていましたが、イチロー選手の先頭打者ホームランで日本ベンチの雰

囲気が変わりました。また、ボブ・デービットソン審判によるタッチアップ判定に関する世紀の誤審があり、憧れだったアメリカの野球に対して、怒りに近い感情でチームが一つになりました。

他にも、アメリカ対メキシコ戦でメキシコがアメリカに負けると日本の敗退が決まるという状況で、メキシコがポール直撃のホームランを打ったのに、ボブ・デービットソン審判が2塁打と判定し、メキシコチームの闘志に火がついてアメリカに勝ちました。ボブ・デービットソン審判のお蔭で日本は優勝出来たのかも知れません。

アメリカにいる時は、日本が盛り上がっていると知らなかったので、優勝して帰国したら、日本国内の盛り上がりにびっくりしました。

〈海外への挑戦〉

シドニーオリンピックで海外選手と対戦する感覚を知ったことと、千葉ロッテマリーンズでアメリカ野球と日本野球の融合を体現していたボビー・バレンタイン監督と出会ったことで、アメリカの野球の考え方に惹かれ、アメリカで野球をやりたいと思いました。

メジャーに挑戦した際は、打たれるのは球が遅いからだと言われてしまうため、私の球のスピードが遅いことが厳しかったです。アメリカは、選手のスピード・変化球・コントロール・体力等を細かく数値化し、全球団のGMが見られるようになっていました。

独立リーグでは、給料や住居等がアメリカのトリプルAとほぼ同じ扱いを受けられました。選手同士仲が良く、お互いに髪を切り合ったりしていました。試合中に炊飯器をセットして試合後に米を食べようと思っていても他の選手が炊飯中に勝手に炊飯器を開けてしまい、米が台無しになってしまうので、テーピングで炊飯器をぐるぐる巻きにして開けられないようにしていました。また、暑がりの選手が多く、移動のバスやホテルの部屋が寒いのが大変でした。

ベネズエラのウィンターリーグは、メジャーリーグのオフシーズンに選手が来るので、チームの半分が現役のメジャーリーガーでした。ベネズエラでは野球の人気があり、毎試合2万人位観客が来ており、給料も日本のプロ野球の2軍よりも数倍良かったです。全国ネットで試合を中継しているので、2試合位先発登板をすると町中の人が私の事を知っている状態でした。

また、アジア人に対する差別表現をされたり、中国人の蔑称で呼ばれたりしました。日本人であると主張してもアジア人として扱われるので、日本人であるこ

との主張よりも私はこういう人間なんだということが問われました。

海外では、人の話を聞くことと、自分の伝えたいことを言うこと、これが出来ないと自分の居場所がなくなります。新参者だからと隅で大人しくしていようと思っていると、いつまでも求めてもらえません。また、人の話の腰を折って話す人が嫌われるので、小学生が話しかけて来ても、最後まで話をしっかりと聞くという姿勢が印象的でした。

〈質疑応答〉

トークショーに引き続き、会場からの質問コーナーになり、活発な質疑応答になりました。ここでは、質疑応答の中から印象に残ったものをご紹介させて頂きます。

質問：アンダースローという、見本が少ないフォームで投げる中で、答えを手探りで探す苦労をどのように乗り越えたのでしょうか？

渡辺：中学校時代は3番手、高校時代はベンチ入りしただけで喜んでいたので、私は、自分自身に期待していません。ちょっと頑張れば出来そうな小さな目標を少しずつ作っていくことにより、挫折・苦労という感覚を持たないようにしています。また、やりたいことよりも、自分

の特徴を活かせること、自分の特徴をどう活かしたら必要とされる人間になれるかということに対して頑張ってきました。

質問：甲子園を目指す高校球児にアドバイスをお願いします。

渡辺：高校野球は、名門校と対戦することも多く、対戦相手のユニフォームや雰囲気に飲まれてしまい、力を発揮できないことがあります。一発勝負の高校野球では、チームの雰囲気を変えられる選手がチームにいるかどうかが大切だと思います。

質問：緊張する場面をどのように克服しているのでしょうか？

渡辺：緊張はした方が良いと思います。緊張は集中力を保つためのエネルギーなので、緊張感を集中に変え、どのようにコントロールするかが大切だと思います。私は、試合の3日前から試合に向けた準備をし、これだけ準備したのだから、2・3点取れられても諦めたくないという粘りにつなげています。また、準備の段階から喜怒哀楽を極力出さないようにし、自身の感情を抑えることにより、試合の日の集中力を高めています。

トークショーの最後には、会場向けに「私は、渋谷という地で学んだことで、世界で臆することなく堂々としていられました。みなさんには、大学や街から学んで日本のみならず、世界中で活躍して欲しいと思います。」という熱いメッセージを頂きました。

トークショーが始まるまでは、当然野球の話が中心であると思っていましたが、実際にトークショーを聞いていると学生にとっては学生生活や今後の就職活動、社会人にとっては仕事をする上での心構えや今後のキャリアビジョンを考えるヒントが沢山含まれていました。また、海外でのエピソードは、これからの国際化社会に向け、非常に貴重なお話でした。

トークショー終了後は、サイン及び記念撮影を求める参加者が列を作りましたが、快く全員にご対応頂きました。中には、千葉ロッテマリーンズ時代のユニフォームを着て来た参加者もおり、渡辺氏のファンの多さを感じさせるトークショーでした。

最後になりますが、今回のトークショーにご協力を頂きました、渡辺俊介氏と素晴らしい司会を務めて頂きました宮田統樹氏に感謝の意を込めてトークショーの報告とさせて頂きます。

渡辺俊介氏の著書：アンダースロー論
2006年光文社新書　定価(本体700円＋税)

渡辺　俊介
(WATANABE, Shunsuke)

1976年8月生まれ　107期哲学科卒
栃木県下都賀郡都賀町（現：栃木市）出身。
國學院大學栃木高校を経て、1995年國學院大學文学部哲学科に入学と共に硬式野球部で活躍。
1999年社会人野球の新日本製鐵君津に入社し、2000年にシドニーオリンピック（野球）の日本代表選手として出場。
2001年から2013年まで、プロ球団の千葉ロッテマリーンズに所属。
2006年、2009年にWBC日本代表として2大会連続で出場。
2014年にメジャーリーグに挑戦の為、レッドソックスのスプリングキャンプに招待選手として参加。
2014年・2015年には、アメリカ・独立リーグのランカスター・バーンストーマーズやベネズエラのレオネス デル カラカスでウィンターリーグのプレーを経験した。
2015年12月1日からは、新日本製鐵君津の後継チーム・新日鐵住金かずさマジックにコーチ兼投手として在籍。
2016年からは、同チームで現役生活を続けながら、野球解説者としても活動している。
世界一低いと言われるアンダースローが特徴で、通称は「ミスターサブマリン」。

宮田　統樹
(MIYATA, Nobuki)

73期政経学部卒
1976年ニッポン放送に入社後、アナウンサーとしてプロ野球、競馬の実況を担当。2001年にフリーとなり、76歳の現在も現役アナウンサーとして活躍している。

いつも母校への温かい応援をありがとうございます。

陸上競技部　第94回箱根駅伝　総合14位

今年の箱根駅伝も選手たちの熱い走りが感動を与えてくれました。その中で経済学部所属の選手たちを紹介いたします。次回もまた予選会からとなりますが、箱根を経験した２年生の活躍が非常に楽しみです。

１区 浦野雄平君（経営２年）
区間順位２位
各大学のエース級の選手がそろう１区で圧巻の走りを見せ、本学歴代最高順位の２位で襷を渡しました。

３区 青木祐人君（経済ネットワーキング２年）
区間順位５位
18位で襷を受け取ると、他を寄せ付けない走りで14位まで順位を押し上げました。

５区 河野敢太君（経営４年）
区間順位 18 位
山登り候補がいない中、一番苦しい役割を担って走り、なんとか相手が見える位置で走り切ってくれました。

10区 江島崚太君（経済３年）
区間順位５位
前の区間で襷がつながらないアクシデントがありましたが、諦めることなく前を追い続け、一つ順位を上げました。

硬式野球部

平成29年度　東都大学春季リーグ　第２位（７勝５敗１分　勝ち点３）
東都大学秋季リーグ　第４位（８勝７敗　勝ち点３）

山﨑　剛君（経営4年）

春、秋ともあと一歩というところで惜敗し、優勝を逃しています。その中で山﨑　剛君（経営４年）が東北楽天イーグルスからドラフト３位指名を受け、プロ野球の世界に飛び立ちます。

応援メッセージ募金のお知らせ

皆さまの応援メッセージが母校ホームページに掲載され、そして直接学生に届きます。メッセージの掲載はワンコイン（500円）から可能です。ぜひ学生に向けて、皆さまの熱い応援メッセージをお寄せください。詳しくは母校ホームページまで。http://www.kokugakuin.ac.jp

今期（平成29年１月～12月）は、下記会員の皆様から、ご寄付･年度会費を頂戴いたしましたことをご報告いたします。院友経済会より心より感謝申し上げます。（平成28年12月31日現在）（※敬称略）

平成29年度　寄付者一覧

一口100円　単位：百円

期	氏名	口数
61	島村　宏	100
65	森　静雄	100
	赤木正憲	50
69	岩埜敬一	30
72	髙阪盛男	100
	間々田恒臣	30
	和田　淳	10
73	岡前凱充	20
	青木宏之	10
	三浦武士	10
74	大塚　勤	80
	棚橋鎌次	30
	穂戸田久雄	20
	上田常雄	10
	佐藤寿雄	10
76	笠原三郎	100
79	山田忠昭	10

期	氏名	口数
80	林　和成	80
	加藤元茂	30
	戸川二郎	30
81	坂本真佐人	10
82	泉澤　博	50
83	石塚秀一	10
84	青木正子	30
88	橋本憲市郎	30
99	中村大介	20
101	古澤　繁	10
104	和智恵一	40
108	益本博之	40
	佐野真之	20
109	広瀬健一	20
114	大矢英広	20
118	鈴木一匡	20

（以上33名）

平成29年度　年度会費納入者一覧

会費1,000円

卒期	氏名
74	佐藤寿雄
78	片桐二郎
80	谷内克郎
	辻村　昭
	橋本民夫
88	佐藤誠博
96	手嶋謙二郎
99	中村大介

卒期	氏名
108	佐野真之
	益本博之
109	広瀬健一
111	林　紅花
114	大矢英広
118	鈴木一匡
119	中澤竜也
120	関　祥子

（以上16名）

※「年度会費（年間＝1,000円）」納入についてのお願い・・・終身会費納入者を除きます。
院友経済会の活動は、会員の皆様の会費で運営されています。
院友会とは別に納入をお願いしておりますので、当会の活動をご理解の上、是非ともご協力をいただきますようお願い申し上げます。

平成29年度　定例総会（平成28年10月1日から平成29年9月30日まで）

日　時：平成29年11月18日（土）正午

場　所：渋谷キャンパス2103教室

【第一号議案】平成29年度事業報告及び決算・監査報告（別表1）承認の件

院友経済会（旧院友政経会）発足60周年並びに経済学部開設50周年（政経学部65周年）を経て、今年度は大学、経済学部、院友会との関係を密に保ちながら、特に卒業後に新規会員となる在学生に対し、積極的な支援と言う形でアプローチを心がけた。また、総会及び懇親会の在り方について、会員の参加者増を図るために検討を重ねた。

平成29年度の主な活動は以下のとおりである。

（1）総会の開催

・総会は、平成28年10月15日、母校のホームカミングデーの中で渋谷キャンパス３５０４教室にて開催し、各議案は滞りなく承認された。例年総会後に懇親会を開催していたが、今年は本会及び経済学部合同記念祝賀会を別途開催する関係で、総会のみの実施とした。

（2）院友経済会発足60周年、経済学部開設50周年記念祝賀会の合同開催

・平成28年12月3日（土）院友経済会発足60周年及び経済学部開設50周年記念合同祝賀会を、本会及び学部記念事業費として100万円を合同祝賀会費用として支出し、母校渋谷キャンパス5号館アリーナで開催した。参加者は在学生、本会会員、母校教職員など300名を超え、また、当日、併せて開催されたタリーズコーヒージャパン株式会社代表取締役社長・岩子良春氏（経済学科82期）と株式会社銀座ルノアール代表取締役社長・小宮山誠氏（経済学科105期）による特別対談は、400名近い入場者があり、正に三身が一体となった華やかで有意義な一日となった。開催までに至る過程では、本会理事会と学部がプロジェクトを組み、相互協力の下で進められたことは、今後の活動に向けて大きな資産となった。

（3）機関誌の刊行、ホームページの活用

・本会の活動の記録に加え、経済学部を中心とした母校の活動や学生の活躍などを盛り込み、２０１７年（平成29年）3月号（Ａ４判フルカラー32頁）を刊行し、経済学部卒業生、新4年生、会員他に配布した。

・ホームページでは情報の早期提示を心掛け、総会・懇親会への申し込み窓口とするなど、本会の重要な広報手段として明確に位置付けていくよう努めた。また、大学ホームページとのリンクによる情報提供にも注力した。

（4）行事等の参加

・平成29年5月27日、母校渋谷キャンパスで開催された全国院友支部長会議、併せて母校創立135周年・院友会発足130周年記念事業として開催された高円宮家所蔵・根付コレクション特別展（於、母校博物館）に本会も出席した。例年同時に開催される院友大会は、平成29年10月21日（土）母校ホームカミングデーとの合同開催となり、会長が出席した。

・経済学部開設50周年事業に対し、院友経済会として積極的に支援協力を行うという方針に基づき、以下の記念行事に理事が出席した。

・連続講演会「地方創生」全3回（H28／10／8、11／5、H29／1／5）

・「経済学という物語―市場・国家・共同体」講師：松井彰彦東京大学大学院経済学研究科教授

（5）学生支援事業

・母校奨学寄付金（大規模災害被災学生支援）として、前年に引き続き母校に10万円の寄付を行った。（平成28年11月26日）この事業は、母校が行っている学生支援に準じて実施しているものであり、東日本大震災被災学生への支援から始めて、通算6年目となる。

・基礎演習プレゼンテーション大会「第３回ＰＢＬトッププランナー國學院」予選会に審査員として本会理事4名が参加し、加えて本会より特別賞、奨励賞として総額４６、０００円分の図書カードを受賞者に授与した。

・第125回卒業式は、平成29年3月19日に、グランドプリンスホテル新高輪で挙行され大塚会長が参列した。卒業式終了後、渋谷キャンパスでの経済学部卒業祝賀会に会長並びに理事12名が出席して祝意を表し、教員及び新卒業生と懇親を図り院友経済会への理解を促した。なお、祝賀会出席に伴い、3万円を賛助金として学部に贈呈した。

・卒業祝賀行事の中で、学部主催の経済学会懸賞論文で最優秀賞（1件）及び優秀賞（2件）を受賞した3名の学生に大塚会長から表彰状と褒賞金を授与した。

【第二号議案】平成30年度事業計画及び予算案（別表2）承認の件

院友経済会を維持・発展させるために、大学・経済学部・在学生・院友会との相互協力を促進させる活動を推進していく。主な事業計画（案）は以下のとおりである。

（1）大学及び院友会との連携協力

大学並びに経済学部、そして院友会との関係において密接な交流を図ることを基本方針とする。経済学部、院友会と協力し、院友経済会の発展につなげるネットワークを構築させていく。特に経済学部におけるゼミを中心としたネットワークとの連携を求めていく。

（2）学生支援事業

大学並びに経済学部と連携し、在学生に対する就職支援として、講演会や当会員との交流の機会を設ける。また、経済学部主催の経済学会懸賞論文の最優秀者、優秀者の学生への表彰及び褒賞金を継続的に行うと共に、学部授業におけるアクティブラーニング、プレゼンテーション大会などへの協賛を通じて、経済学部在学生の学業研鑽に対する直接的支援を広くかつ積極的に行っていく。卒業式における祝賀会は本会の活動・各種行事への参加を呼び掛ける貴重な機会であり、会長ほか理事が出席し、当会からの祝意（御祝金贈呈）を示すと共に経済学部新卒業生との交流を積極的に図る。また、院友会とも連携を取りながら、在学生への就職支援協力を推進する。

母校奨学寄付金制度への寄付を通じて、在学生への経済的支援を継続するが、大学の支援状況も考慮しながら、会費還元の意味をより強く持つような支援策を検討する。

（参考）東日本・大規模災害学費減免制度適用学生：H28年度32名（内経済学部生4名）、H29年度15名（内経済学部生2名）

（3）情報発信の強化

毎年刊行している機関誌「院友経済」について、次号は平成30年3月の刊行を予定している。なお、ホームページへの掲載を検討し配付対象の見直しを行うことで、印刷部数の圧縮を図りたい。

また、本会ホームページについて、会員への最新情報を発信する重要な広報手段として位置付け、コンテンツなど一層の拡充を図る。ホームページの活用により、会員と本会並びに母校との相互交流の活発化を促進する。

（4）総会及び懇親会の開催

ここ数年母校ホームカミングデーの開催に合わせ総会・懇親会を設定してきたが、昨年開催した経済学部との合同記念祝賀会を独自日程で実施したこともあり、平成30年度（平成29年秋）の開催は独自の日程で、本会員の関心を引く独自企画や学部・在学生との交流を軸とした在学生支援に繋がる企画を積極的に組み込んでいく。なお、経済学部及び学生の組織する学生委員会との継続性を持った連携を目指したい。

【第三号議案】
理事改選について

※別表3のとおり承認。

（別表3）

平成30年度院友経済会理事・監事名簿

（任期3年：平成29年10月1日～平成32年9月30日）

役職区分	氏　名	卒期　学部
会　長	大塚　　勤	74 政
副会長	間々田恒臣	72 政
副会長	鍋田　英彦	74 政
副会長	加藤　元茂	80 経
常務理事	植松　　正	79 経
常務理事	戸川　二郎	80 経
常務理事	橋本憲市郎*	88 経
理　事	赤木　　博	66 政
理　事	山野　彩子	68 政
理　事	谷本　秀男	70 政
理　事	和田　　淳	72 政
理　事	金子　義昭	75 経
理　事	應和　邦昭	76 経
理　事	山田　忠昭	79 経
理　事	山田　　力	79 経 新
理　事	林　　和成	80 経 新
理　事	坂本真佐人	81 経
理　事	北久保眞道	85 経
理　事	鈴木　錦治	87 経 新
理　事	栗山　欽行	91 経 新
理　事	東海林孝一*	91 経
理　事	中村　大介*	99 経 新
理　事	根岸　毅宏*	100 経
理　事	服部由季夫	101 経
理　事	古澤　　繁*	101 経
理　事	広瀬　健一*	109 経
理　事	大矢　英広*	114 経
理　事	細井　堯之*	115 経 新
理　事	鈴木　一匡*	118 経
理　事	中沢　竜也*	119 経 新
監　事	笛田　信一	96 経 新
監　事	冨田　尚敬	111 博前経

※院友経済会理事定数は、25名以上30名以内。
　監事は2名。
＊→母校勤務者

（別表1）

平成29年度　國學院大學院友経済会決算書

【収支決算書】（平成28年10月1日から平成29年9月30日まで）

（単位円）

収入の部				
科　目	平成29年度予算	決　算	差　異	備　考
入会金収入	1,160,000	1,160,000	0	@2,000円（4年進級時に580名分徴収）
会費収入	590,000	590,000	0	@1,000円（4年進級時に580名分徴収、及び会員10名納入）
終身会費収入	50,000	10,000	40,000	終身会費10,000円（1名納入）
一般寄付金収入	120,000	83,000	37,000	
特別寄付金収入	100,000	130,000	-30,000	60周年記念祝賀会祝金、懇親会酒肴料
懇親会費収入	0	0	0	総会当日の懇親会費（本会60周年、経済学部50周年記念祝賀会実施）
受取利息収入	1,000	397	603	
雑　収　入	60,000	67,000	-7,000	広告掲載料
当年度収入合計	2,081,000	2,040,397	40,603	
前年度より繰越金	2,507,563	2,507,563	0	
合　　計	4,588,563	4,547,960	40,603	

（単位円）

支出の部				
科　目	平成29年度予算	決　算	差　異	備　考
機関誌刊行費支出	600,000	549,891	50,109	1,600部発行
通信費支出	150,000	36,734	113,266	総会開催通知・機関誌等発送郵券代他
運営費支出	200,000	151,304	48,696	ホームページ管理料、業務手当
事務用品支出	100,000	2,600	97,400	事務用品費
会議費支出	60,000	61,517	-1,517	理事会飲物代、学外理事交通費
渉外費支出	150,000	165,114	-15,114	慶弔費・卒業式祝賀会、特別対談講師飲食代
懇親会費支出	0	0	0	本会60周年、経済学部50周年記念祝賀会合同実施
補助費支出	300,000	221,000	79,000	学生懸賞論文優秀者褒賞金　他
講演会費支出	0	0	0	
奨学寄付金	100,000	100,000	0	大規模災害被災学生支援（國學院大學に寄付）
記念事業費	1,000,000	1,000,000	0	本会60周年、経済学部50周年記念事業費
預り金からの振替	0	10,000	-10,000	前年度預り金から終身会費への振替処理
翌年度繰越金	1,928,563	2,249,800	-321,237	
合　　計	4,588,563	4,547,960	40,603	

【貸借対照表】（平成29年9月30日現在）

（単位円）

資産の部		負債の部	
科　目	金　額	科　目	金　額
現　金	49,905	基　金	5,000,000
普通預金	2,534,895	※次期繰越金	2,249,800
振替貯金	165,000		
定期預金	4,500,000		
合　計	7,249,800	合　計	7,249,800

備考：

※次期繰越金は、平成29年度　収入合計（4,547,960円）－支出合計（2,298,160円）＝収支差額（2,249,800円）となります。

平成29年度の國學院大學院友経済会の決算について、収支決算書・貸借対照表のとおり報告致します。

平成29年9月30日　　会計担当　　鈴木　一匡　　㊞

決算書のとおり相違ないことを認めます。

平成29年10月28日　　監事　　片桐　二郎　　㊞

監事　　冨田　尚敬　　㊞

（別表2）

平成30年度　國學院大學院友経済会予算書

（平成29年10月1日から平成30年9月30日まで）

（単位円）

収入の部				
科　目	平成30年度予算	平成29年度予算	増　減	備　考
入会金収入	1,020,000	1,160,000	-140,000	4年進級時（@2,000円×510名）徴収分
会費収入	520,000	590,000	-70,000	@1,000円×520名（4年進級時510名分及び会員10名分を含む）
終身会費収入	50,000	50,000	0	@10,000円×５名
一般寄付金収入	100,000	120,000	-20,000	
特別寄付金収入	150,000	100,000	50,000	懇親会酒肴料、院友会からの助成金
懇親会費収入	200,000	0	200,000	懇親会参加費　@2,000×100名
受取利息収入	500	1,000	-500	
雑　収　入	60,000	60,000	0	広告掲載料
当年度収入合計	2,100,500	2,081,000	19,500	
前年度より繰越金	2,249,800	2,507,563	-257,763	
合　　計	4,350,300	4,588,563	-238,263	

（単位円）

支出の部				
科目	平成30年度予算	平成29年度予算	増減	備考
機関誌刊行費支出	600,000	600,000	0	1,600部発行
通信費支出	150,000	150,000	0	総会・懇親会開催案内（院友会報に掲載）、郵券代他
運営費支出	200,000	200,000	0	ホームページ管理料、業務手当他
事務用品支出	100,000	100,000	0	振込用紙・はがき・封筒印刷費他
会議費支出	60,000	60,000	0	理事会開催時の飲物代、交通費
渉外費支出	150,000	150,000	0	慶弔費・卒業祝賀会・就職支援・院友大会助成他
懇親会費支出	500,000	0	500,000	総会当日の懇親会（150名想定）
補助費支出	300,000	300,000	0	学生懸賞論文優秀者褒賞他、学部生への褒賞等
講演会費支出	400,000	0	400,000	スペシャルトークショー謝金
奨学寄付金	200,000	100,000	100,000	大規模災害被災学生支援（國學院大學に寄付）
記念事業費	0	1,000,000	-1,000,000	本会60周年・経済学部50周年記念事業経費（29年度のみ）
翌年度繰越金	1,690,300	1,928,563	-238,263	
合　　計	4,350,300	4,588,563	-238,263	

國學院大學　院友経済会終身会費納入者名簿

（平成29年12月31日現在）

（※敬称略）

卒期	氏　名	氏　名	氏　名	氏　名	氏　名	氏　名	氏　名	氏　名	氏　名
61	真野　博	宮城島　巌	島村　宏	渡辺　正治	赤沼吉太郎	井上　俊彦			
62	北條　俊朗	平山　八郎							
63	塩野　藤雄	藤田　恒好	鈴木　太	中島　稔	小澤　幸宏	永井　伸吉	古庄　繁光	渡辺　皓彦	佐々木光郎
	大橋　純子								
64	柿沼　廣	折戸　幸雄	陌間　修	真貝　義朗	池田　憲重	山田　忠義	木村　俊文	滝嶋　芳郎	
65	加藤　良治	木村　安秋	藤崎　昭夫	小倉　光雄	高木　仁	小倉　昌子	竹内　栄一	今野　隆弘	鵜沢　冬彦
	森　静雄	守屋　明一	関場　孝和	松葉　義孝	綿田　重義	梅村淳之介	赤木　正憲	鈴木　英夫	
66	蛯原　弘	齋藤　壽男	神崎　良治	岩渕　悦雄	赤木　博	服部　和夫	広瀬　一	三宅　惟生	山北　厚
	八木　良隆	松澤　泰男	今湊　憲英	五十嵐明迪					
67	今井　亮	新村　貢一	倉本　士誓	住吉　秀雄	中島　浩	和田美佐男	渡辺　力	平瀬　據英	藤井　吉春
	小山田　亘	中村　一徳	佐子　和満	石井　孝昌	大久保久喜	坂本　俊郎	小野沢公男	島津貴美子	倉田　重信
	愛川　正一	榊原　正直							
68	榎本　貴雄	金丸　準一	小林　直俊	山野　彩子	草間　順一	信戸　文也	谷　正幸	大石　盛樹	加藤　修
	村山　武雄								
69	東海林和衛	常廣　達徳	新美　進作	安西　利夫	高石　禎夫	岩埜　敬一	佐藤　正剛	浅野　博信	濱島　章平
	今井　勇正	酒徳　誠							
70	友野　昭男	上山　武徳	岡田　重幸	北條　章宏	川手　篤	西村　卓夫	永井　篤	米本　勇	望月　昇
	森元　孝	渡辺　詮	渡辺　輝昭	吉成　充	増田　衛一	松本　彰夫	谷本　秀男		
71	林　良彦	堀　昌勝	大條　修也	安田　邦彦	吉田与一郎	戸次　健三	室田　昭三	廣井　武司	佐藤　信一
72	山田　勝康	斎藤　博美	和田　淳	鈴木　宏	水上　照夫	三田村　明	羽中田　進	大熊　橿一	西出　善明
	髙阪　盛男	斎藤　義明	斎藤　賢博	中村　威夫	白岩　賢三	田中　克昭	粕谷　弘志	宮澤　正清	間々田恒臣
	本明　博文	石沢　正伯	三浦　顯						
73	河原崎　弘	栗延　敬徳	渡辺　博	長岡　和行	谷山　清成	二宮　和彦	大西　秀機	小口　佳祐	三浦　武士
	須田　昌代	森谷　忠晴	石渡　武久	安藤　英明	青木　宏之	近藤　博之	飯野　穂	村上　功夫	下城　雅之
	河野満寿哉	今井　勝利							
74	瀬村　浩璽	長谷川哲嘉	神津　秀章	北尾　徹	佐藤　寿雄	杠　正吉	松下　吉男	棚橋　鎌次	山崎　守
	小田　征之	宮沢八十八朗	日高　太郎	玉井　浩二	佐納　毅	宇井　克彦	上田　常雄	五十嵐　正	大塚　勤
	斎藤　朋子	北村　順一	鍋田　英彦	土屋　平					
75	浅野　喜宏	河野禮次郎	福島　英一	開　國嘉	奥山　政和	金子　義昭	三浦　侃	岡本　重男	髙木　達夫
76	杉岡　芳夫	小池　勝	笠原　三郎	青木　敬三	坂入　益	應和　邦昭			
77	大平　和利	伊藤　忠	佐竹　宏夫	神田　仁司	小島　誠人	加藤　嘉郎	渡辺　昭		
78	荒木　幹光	吉野　弘一	藤田　康雄	大島　文弘	小黒　光司				
79	山田　力	山田　忠昭	林　邦匡	八木　洋治	田中　唯二	三浦　治郎	前田　均	植松　正	
80	荒井　啓史	小俣　能範	石川　一廣	林　和成	戸川　二郎	加藤　元茂			
81	坂本真佐人	稲葉　啓	清水　義一						
82	岩切　義治	小林　博行	宮崎　芳光	伊藤　治	小林　一彦	泉澤　博			
83	寺澤はるか	伊藤　政美	石塚　秀一						
84	青木　正子	光部　泰孝							
85	北久保眞道								
86	荒井　一	守屋　努							
87	齊藤　悦雄								
88	橋本憲市郎								
89	松本　朗								
90	斉藤　覚								
92	髙木つぐみ	舟戸　一郎	萩原　昇						
93	高橋　秀明								
94	面川　雄司								
96	伊藤　晴久	笛田　信一							
101	古澤　繁	坂入　裕一							
102	人見　剛								
104	和智　恵一								
特	弘田　嘉男	紺井　博則	海野　潔						

【終身会費納入のお願い】

＊終身会費制度…院友経済会では「卒業後20年経過」を資格要件として終身会費の納入をお願いしております。

＊終身会費１万円を納入することにより、終身会員として毎年、機関誌、総会・懇親会の案内状を送付させて頂きます。
（終身会員は、年度会費の納入の必要はありません）

＊平成29年度は、平成９年（105期）までに卒業された全ての方が有資格者です。

是非この機会に105期までの方は終身会員になりましょう。

＊年度会費納入の方で105期までの方は、出来るだけ終身会費に切り替えて頂きますようにお願いいたします。

＊106期以降（平成10年卒業以降）の方は終身会員の資格がありませんので、会費（年会費1,000円）納入の際にはお間違えのないようにお願いいたします。
（院友経済会内規により、残額は寄付金としての取り扱いとさせて頂きます）

國學院大學院友経済会　会則

第一章　総　則

（名　称）
第一条　本会は、國學院大學院友経済会と称する。
（事務所）
第二条　本会は、事務所を 東京都渋谷区東四丁目十二番八号國學院大學院友会館 内に置く。

第二章　目的および事業

（目　的）
第三条　本会は、会員相互の親睦を図るとともに、母校の発展のために協力することを目的とする。
（事　業）
第四条　本会は、前条の目的を達成するために、院友会本部と密接な連携を保ちつつ、次の事業を行う。
一　会員相互の福祉共済。
二　懇親会の開催。
三　会員名簿および機関誌、新聞の発行。
四　連絡相談室の開設。
五　その他本会の目的を達成するための必要事業。

第三章　会　員

（会　員）
第五条　本会の会員は、次の通りとする。
一　正会員　國學院大學政経学部および経済学部卒業生。
國學院大學大学院経済学研究科修了者および単位取得満期退学者。
上記の学部、大学院に在籍したもので理事会が承認した者。
二　特別会員　会長が推薦し、理事会で承認された者。
三　名誉会員　本会の発展のために特に功労があり、理事会の推薦を経て総会で承認された者。
四　賛助会員　会員の推薦により理事会で承認された者。
（会　費）
第六条　本会の正会員は、定められた会費を毎年九月三十日までに納入しなければならない。

第四章　役　員

（役員の種別および数）
第七条　本会に次の役員を置く。
一　会　長　一名
二　副会長　三名以内
三　常務理事　三名以内
四　理　事　二十五名以上、三十名以内（会長、副会長、常務理事を含む）
五　監　事　二名
（役員の選任）
第八条　理事及び監事は、総会において正会員の中から選任する。
2　理事の互選により会長、副会長、常務理事を選任する。
3　理事及び監事は、相互にこれを兼任することはできない。
4　役員に欠員が生じた時は、理事会において後任者を選出することができる。その際は、次期の総会において承認を得なければならない。
第八条の二　経済学部教授会の推薦に基づき、学部選出の理事一名を置くことができる。
（役員の職務）
第九条　役員は、それぞれ次の職務を行う。
一　会長は、本会を代表し会務を統轄する。
二　副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときはその職務を代行する。
三　常務理事は、会長の指示により会務全般を担当する。
四　理事は、それぞれ担当会務を処理する。
五　監事は、理事の業務執行状況、資産および会計の監査に当る。
（役員の任期）
第十条　役員の任期は三年とする。
2　役員は任期が終了しても後任者の就任までは、引き続きその職務を行う。
3　中途で就任した役員の任期は、前任者の残任期間とする。
（顧　問）
第十一条　本会に、顧問を置くことができる。
2　顧問は、理事会の議を経て、会長が委嘱する。
3　顧問は、会長の諮問に応え、理事会に出席して意見を述べることができる。

第五章　会　議

（会議の種類）
第十二条　本会の会議は、総会・理事会および委員会とする。
（総会の種類と招集）
第十三条　総会は、定例総会と臨時総会の二種とし、会長がこれを招集する。
2　定例総会は毎年一回開催し、臨時総会は必要に応じて開催する。
（総会の権限）
第十四条　次の事項は、総会の議決を得なければならない。
一　収支決算および事業報告
二　収支予算および事業計画
三　役員の改選
四　その他重要事項
（総会の議長）
第十五条　総会の議長は、出席正会員の中から選出する。
（議　事）
第十六条　議事は、出席正会員の過半数により決定し、可否同数のときは議長がこれを決する。
2　会則の改廃は、総会出席正会員の三分の二以上の賛成を要する。
（理事会）
第十七条　理事会は、会長・副会長および理事で構成し、必要に応じて会長がこれを招集する。
2　会長は理事会の議長となり会議を主宰する。
3　予算および決算は理事会の議決を要するものとし、決算については監事の意見を求めるものとする。
4　予算および決算は機関誌に掲載発表することにより、会員への報告に代えるものとする。
（理事会の審議事項）
第十八条　理事会の審議事項は、次のとおりとする。
一　事業の執行に関する事項
二　財産管理に関する事項
三　総会の議決により委任された事項
四　総会に提出する議案に関する事項
五　この会則を施行するために必要な規則の制定または改廃に関する事項

六　その他会務の運営に必要な事項

（委員会）

第十九条　会長が必要と認めたときは、委員会を設置することができる。

委員は、理事の中から会長が指名する。

第六章　資産および会計

（資　産）

第二十条　本会の資産は、次の通りとする。

一　会　費

二　寄付金

三　その他の収入（広告収入他）

（資産の管理）

第二十一条　本会の資産は、会長がこれを管理する。

（経費の支弁）

第二十二条　本会の経費は、資産をもって支弁する。

（会計年度）

第二十三条　本会の会計年度は、毎年十月一日に始まり翌年の九月三十日に終る。

第七章　雑　則

第二十四条　本会は、一般財団法人國學院大學院友会の協力団体とする。

第二十五条　この会則についての細則は、理事会で別にこれを定める。

附則　平成十三年度の会計年度は、十三年一月一日に始まり九月三十日に終るものとする。

制　定　昭和三十年十二月十一日

改　定　昭和三十二年九月二十二日

昭和三十二年十一月十日

昭和三十七年二月十八日

昭和四十年七月十日

昭和四十六年五月三十日

昭和四十七年五月二十一日

昭和五十年六月一日

昭和五十八年十一月二十三日

昭和六十年十一月二日

昭和六十三年十一月二十三日

平成二年十一月十七日

平成十二年十一月二十五日

平成十四年十一月二十三日

平成十五年十一月二十二日

平成二十六年十月十八日

平成二十七年十月十七日

國學院大學院友経済会　細則

制　定　昭和五十年六月一日

改　定　平成元年五月十八日

改　定　平成十二年十一月二十五日

改　定　平成十四年十一月二十三日

一、この細則は、國學院大學院友経済会会則第二十五条に基づき定める。

二、会費は次の五種類とする。

①　入会金、二千円。

②　年度会費、一千円。

③　終身会費、一万円（納入資格は卒業後二十年を経過した者）。

④　賛助会員の会費、年額一万円。

⑤　懇親会費、その都度定める。

三、本会の連絡事務所を左記に置く。

國學院大學院友会館

（電話）〇三・三四〇〇・七七八一

國學院大學院友経済会　内規（会則第十八条第一項第五号）

制　定　平成十七年九月二日

改　定　平成二十六年七月十二日

第一条　この内規は、本会業務の実施について必要な事項を定めるものである。

第二条　この内規は、國學院大學院友経済会会則に基づき、事業計画及びその財政状態を正確に提供するとともに、本会業務の効率的な運営を図ることを目的とする。

第三条　事務の分掌並びにその業務手当について、次のとおり定めるものとする。

一、総務

1　会員名簿の整備

会員より提出のあった資料に基づき、氏名・卒期・連絡先を記載した名簿を整備する。

2　理事会開催の日程調整・招集通知・出欠取り纏め

3　理事会議事に係る資料作成

4　理事会・総会の議事録作成及び記録

5　その他総務に関する事項

二、経理

1　会計帳簿の記帳

会計帳簿は、主要簿と仕訳帳とする。

仕訳帳は、会計伝票をもってこれに代える。

会計伝票には、勘定科目・取引年月日・数量・金額・相手方等、取引内容を簡単且つ明瞭に記載しなければならない。

2　証憑書類の整備

証憑書類とは、会計伝票の正当性を立証する書類を言い、次に掲げるものを言う。

①　請求書

②　領収書

③　証明書・納品書・送り状

④　各種計算書

⑤　契約書・覚書

⑥　その他取引を裏付ける書類

3　予算

①　事業計画書及び収支予算案は、毎会計年度開始前に執行部で検討し、経理担当者が取り纏め会長に提出する。

②　会長は、速やかに理事会の承認を経て、定例総会の承認を得なければならない。

③　予算執行責任者は、会長とする。

④　印鑑の保管は会長とし、預金通帳の保管は経理担当者とする。但し、代理を置くことができる。

三、広報

1　広報の業務は次に掲げるものとし、編集長一名、副編集長及び編集委員を若干名置く。

①　広報活動に関すること。

②　機関誌の発行に関すること。

四、交通費及び業務手当の支給

1　理事会出席者について、出席に応じて交通費を支給する。交通費の支給方法については別に定める。

2　総務、経理、広報担当者に対し、当該年度の七月と十二月に業務手当として一人金五千円を支給する。

3　特別の業務に従事した者については、会長が判断し、必要な金額を支払うことができる。

第四条　本内規の改廃は、理事会の議を経て行うものとする。

附則　この内規は、平成十七年十月一日から施行する。

附則　この内規は、平成二十六年十月一日から施行する。

株式会社トップコート

代表取締役　植松　正
（経済学部 79 期）

〒225-0013
神奈川県横浜市青葉区荏田町 231-1-422
TEL045(914)7801㈹ FAX045(911)7810

※ リフォーム工事全般 ※
塗装・防水・内,外装
タイル・れんが・ブロック工事
《院友関係者は優遇有り》

三和機材株式会社
＊創立50周年

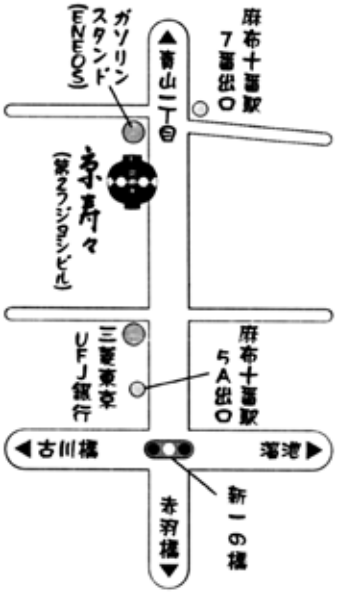
取締役会長　金子義昭
（経済学部 75 期・院友経済会理事）
代表取締役社長　金子竜太郎

本　社　〒108-0075　東京都港区港南 4-2-32
TEL　03-3474-7131
横浜支店　〒223-0057　横浜市港北区新羽町 564
TEL　045-900-2000

管工機材・住宅設備機器商社
建築設備設計・施工・コンサルタント
グループ会社　株式会社エスティ（電気工事）

『京寿々』

tel: 03-6673-4033
〒 106-0045　東京都港区麻布十番 1-9-3
URL:www.kyosuzu.jp



株式会社マツヒロ

会長　廣井武司
（経済学部 71 期）
代表取締役社長　木村公成
（経済学部 92 期）

〒 108-0074　東京都港区高輪 1 － 5 － 8
TEL（3441）1123（代）　FAX（5798）5848

東京のへそ・子育厄除八幡さま

杉並 大宮八幡宮

安産祈願・厄除祈願・家内安全・商売繁昌・心願成就

成人奉告・交通安全・学業成就　等諸祈願祭随時受付

http://www.ohmiya-hachimangu.or.jp

〒168-8570 杉並区大宮2-3-1 TEL 3311-0105(代) 駐車場完備

緑豊かな都心の杜
神々の祝福、感動の挙式を

結婚式場 清涼殿

TEL3312-7515(代)

衣裳・美容サロン、写真スタジオもご利用下さい

八幡さまの杜を保育の庭に
生き生きと輝いている園児達

大宮幼稚園

TEL3313-7373(代)

通園バス有

國學院大學院友経済会
会長 大塚 勤（七四期）

國學院大學院友経済会
副会長 鍋田英彦（七四期）

國學院大學院友経済会
顧問 青木宏之（七三期）

國學院大學院友経済会
常務理事 戸川二郎（八〇期）

國學院大學院友経済会
副会長 間々田恒臣（七二期）

國學院大學院友経済会
副会長 加藤元茂（八〇期）

國學院大學院友経済会
常務理事 植松 正（七九期）

國學院大學院友経済会
常務理事 橋本憲市郎（八八期）

國學院大學院友経済会
理事 赤木 博（六六期）

國學院大學院友経済会
理事 坂本真佐人（八一期）

大衆割烹 たがみ
〒150-0002
東京都渋谷区渋谷一―六―四せいこうビル
電話 三四〇七―九〇八五

■院友経済会機関誌『院友経済』広告掲載のお願い■

毎年発行しております院友経済会機関誌『院友経済』において、皆様からの広告を募集しております。個人の名刺広告からお勤め先の企業広告まで広く扱っておりますので、是非掲載のご協力をお願い申しあげます。ご希望の方は下記の要領でお申し込みください。

◆広告規格および掲載料

	規　格	会　員	非会員
A	表２（表紙裏）	50,000円	70,000円
B	表３（裏表紙裏）	30,000円	50,000円
C	表４（裏表紙）	40,000円	60,000円
D	１ページ	20,000円	40,000円
E	２分の１ページ	10,000円	20,000円
F	４分の１ページ	5,000円	10,000円
G	16分の１ページ（名刺広告）	1,000円	3,000円

◆申し込み方法

※別紙申込書に希望する規格他必要事項を記入の上、お送りください。ご指定の掲載原稿（版下）がございましたら申込書に添えて下記まで送付ください。**メールでのお申し込みの際は、メールの件名には必ず「院友経済広告申し込み」と入力し、申込書に記載されております必要事項をお知らせください。**

※なお、掲載原稿がない場合は、別途相談に応じます。

※掲載ページにつきましては、編集上の都合によりご希望に添えない場合もありますので、あらかじめご了承ください。

◆広告掲載料につきましては、機関誌発行後にご請求申しあげます。

◆送付先・お問い合わせ

〒150－8440　東京都渋谷区東４－10－28
國學院大學　役員室内　　橋本　憲市郎
TEL 03－5466－0103　FAX 03－5466－0180
E-mail　kenichiro@kokugakuin.ac.jp

◇原稿募集◇

次号に向けて、随想、近況報告、ゼミの思い出、同窓会の集まり、趣味の紹介など、なんでも結構ですので、ぜひ原稿をお寄せ下さい。

◆原稿字数

①1500字程度（１頁）
②3600字程度（２頁）
※プロフィール、顔写真、投稿内容に沿った関連写真もご提供下さい。

◆募集期間

毎年12月末まで随時受け付けます。

編集後記

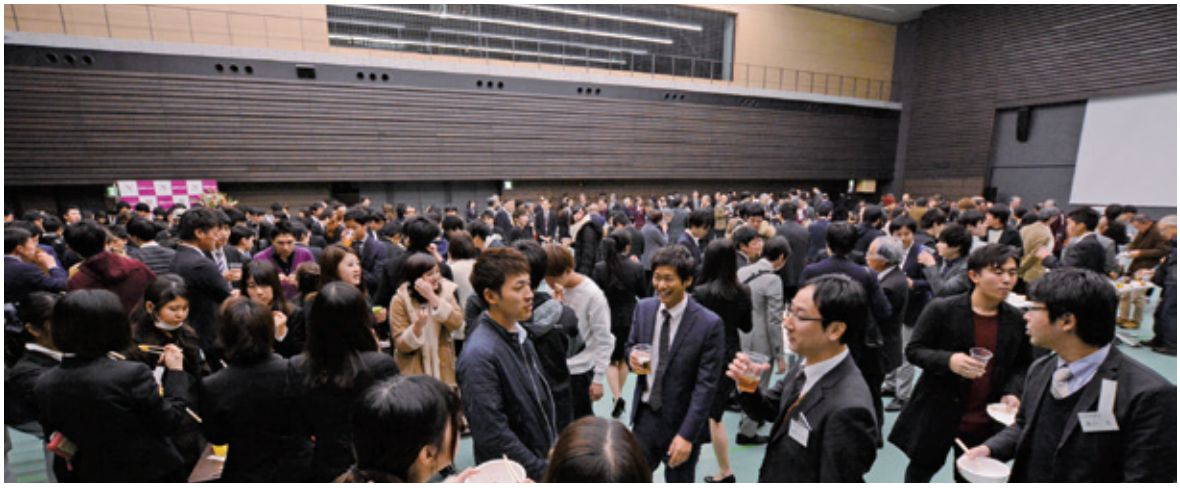
◆当会理事会が昨年9月末をもって任期満了となり、11月の総会で改選されました。長く携わってこられたお二人が退任され、また母校職員による学内理事の交代も含めて、新たに7名の理事が就任いたしました。その他監事もお一人交代されました。会長には大塚会長が引き続き就任され、この30年度から新体制で当会の運営に臨んでいます。近年の活動内容について、当誌にも掲載していますので、そちらをご覧いただければと思います。◆当会の活動計画の中で、キーワードとして〝連携〟が頻繁に登場します。「母校との連携」「院友会との連携」「学部との連携」「在学生との連携」「ゼミとの連携」「地域との連携」等々様々考えられますが、全ては経済学部出身で組織される院友経済会会員同士が一人でも多くつながりを持つための仕掛けであると思います。一つ一つの点がつながることで線となり、それらが結び付き合って無数の網の目のようにつながり、大きなネットワークを形成する、今そのことを強く再認識しながら当会の発展につなげていきたいと思います。◆最近はSNSの普及で瞬間的にネットワークが形成され、情報が行き交う時代となっています。瞬間的に集合した人たちは再び瞬間的に解散していく、そんな場面を多く目にします。最小限の労力でアプローチができ、手段的には実に効果的であることは否定の余地はありません。情報発信の手段としては大いに利用することになろうかと思いますが、集まった方々が長く継続的につながりを持っていただけるようなコンテンツ作りが最も重要であることを忘れないようにしたいと思っています。◆昨年開催しました院友で元千葉ロッテマリーンズ投手・渡辺俊介さんをお迎えしてのスペシャルトークショーは、期待どおりの素晴らしい内容に個人的にも感動を覚えました。かつてWBC国内予選の対韓国戦を東京ドームで観戦し、リリーフで彼が登場した時の鳥肌が立つほどの興奮は、今でも忘れられません。トークショーの内容は当誌にも掲載していますので、ぜひご覧いただければと思います。少しでも彼の強さ、人柄が伝われば幸いです。

編集子

平成30年度総会・懇親会について

今秋10月または11月開催の予定で検討中ですが、詳細が決まりましたら「院友会報」及び院友経済会ホームページ（下記アドレス）等でお知らせいたします。経済学部専任教員を始め、退職された名誉教授にもご案内をいたしますので、ゼミOB会の機会として、ぜひお誘いあわせの上、ご参集いただきますようお願い申し上げます。

http://www2.kokugakuin.ac.jp/inyu-economics/



平成28年　経済学部は開設50周年、
そして院友経済会は発足60周年を迎えました

◆これまでの歩み◆

明治15年（1882）	國學院大學の母体「皇典講究所」創設
明治23年（1890）	皇典講究所に「國學院」設置
明治39年（1906）	私立國學院大學と改称
大正９年（1920）	「大学令」による大学に昇格
昭和24年（1949）	政治学部を設置
昭和25年（1950）	政治学部を政経学部に拡充
昭和26年（1951）	政経学部第二部を開設
昭和30年（1955）	**12月政経学部同窓会の発足**
昭和32年（1957）	**院友政経会に名称変更**
昭和41年（1966）	政経学部第一部・第二部を廃止し、**経済学部第一部・第二部を開設**
昭和43年（1968）	大学院経済学研究科修士課程を開設
昭和45年（1970）	大学院経済学研究科博士課程を開設
昭和57年（1982）	國學院大學創立100周年を迎える
平成８年（1996）	経済学部第一部に経済ネットワーキング学科、第二部経済学科を改編し産業消費情報学科を新設
平成13年（2001）	経済学部第二部を廃止し、昼夜開講制に移行 **院友経済会に名称変更**
平成17年（2005）	経済学部経営学科を新設し、７時限制に移行
平成28年（2016）	**経済学部開設50周年、そして院友経済会発足60周年を迎える**

発　行　日◆平成30年3月18日
発行責任者◆大塚　勤
発　行　所◆國學院大學院友経済会©
東京都渋谷区東4-12-8　國學院大學院友会館内（〒150-0011）
TEL　03-3400-7781
URL　http://www2.kokugakuin.ac.jp/inyu-economics/
印　刷　所◆株式会社　日本法令